

コマンドラインユーティリティリファレンス

# Novell. ZENworks® 10 Asset Management SP2

10.2

2009年5月27日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell Documentation の Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 ZENworks コマンドラインユーティリティ</b>	<b>9</b>
zman .....	10
zeninfocollect .....	76
zac .....	78
<b>2 Linux サテライトのコマンドラインユーティリティ</b>	<b>87</b>
zac .....	88
<b>3 ZENworks コマンドラインユーティリティのトラブルシューティング</b>	<b>95</b>
<b>4 zman の操作ガイドライン</b>	<b>97</b>
<b>A マニュアルの更新</b>	<b>99</b>
A.1 2009年5月29日:SP2(10.2).....	99



# このガイドについて

この『』および『Novell ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』には、次の Novell® ZENworks® 10 Asset Management ユーティリティを使用する際に役立つ情報が記載されています。

- ◆ [zman\(1\)](#)
- ◆ [zeninfocollect\(1\)](#)
- ◆ [zac\(1\)](#)

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ [9 ページの第 1 章「ZENworks コマンドラインユーティリティ」](#)
- ◆ [87 ページの第 2 章「Linux サテライトのコマンドラインユーティリティ」](#)
- ◆ [95 ページの第 3 章「ZENworks コマンドラインユーティリティのトラブルシューティング」](#)
- ◆ [97 ページの第 4 章「zman の操作ガイドライン」](#)
- ◆ [99 ページの付録 A「マニュアルの更新」](#)

## 対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Asset Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) も用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Asset Management \(http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html) を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (l) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。





# ZENworks コマンドラインユーティ リティ

# 1

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10Asset Management コマンドラインユーティリティについて説明します。

- 10 ページの 「zman(1)」
- 76 ページの 「zeninfocollect(1)」
- 78 ページの 「zac(1)」

# zman(1)

## Name

zman - Novell ZENworks 10 Configuration Management へのコマンドラインインタフェースとして、サーバ、ワークステーション、ユーザ管理を総合的に管理します。また、Novell 10 Asset Management へのコマンドラインインタフェースとして、サーバとワークステーションのソフトウェアおよびハードウェアインベントリ、ソフトウェア使用状況トラッキング、ソフトウェアライセンスのコンプライアンス情報を提供します。

## 説明

zman コマンドラインインタフェースはフル機能のユーティリティを備えており、スクリプトを使用することによって多くの操作を簡素化し、さまざまな処理にすばやくアクセスできます。タスクの自動化に使用すると効果的です。

次のセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management と ZENworks 10 Asset Management の全コマンドについて説明します。コマンドによって両方の製品に該当するものと、片方の製品のみに該当するものがあります。

次のコマンドは ZENworks 10 Configuration Management にのみ該当します。Configuration Management がインストールされていない、またはアクティブでない場合は、コマンドは無効です。

- ◆ バンドルコマンド
- ◆ イメージングコマンド
- ◆ ポリシーコマンド

次のコマンドは ZENworks 10 Asset Management にのみ該当します。Asset Management がインストールされていない、またはアクティブでない場合は、コマンドは無効です。

- ◆ アセット管理コマンド

## 構文

```
zman <command> [-options] [arguments]
```

通常は、zman コマンドには、短い形式と長い形式があります。長い形式は、category-action の形式で構成されます。たとえば、コマンド registration-list は、登録フォルダ内の登録すべてを一覧表示します。多くのコマンドがありますが、コマンドはカテゴリ (ワークステーション、サーバ、バンドル、ポリシー、管理者、登録など) ごとにまとめられており、これらに対して実行するアクション (リスト、作成、変更、削除) のほとんどは一般的なものであるため、ほとんどのコマンドは覚えやすいものばかりです。

各コマンドの短縮形では、長い形式の各単語の 1 文字を使用します。つまり、admin-list の短縮形は、al になります。このルールには、短い名前の固有性を保持するために、いくつか例外があります。たとえば、bc は bundle-create の短い形式で、bcp は、bundle-copy の短い形式です。

コマンドは、オプションと引数を取ります。オプションは、コマンドのどこでも指定できます。引数は位置に依存します。

## オプション

オプションには、スイッチオプションとフラグ付きオプションの2つのタイプがあります。どちらのオプションにも、短い形式と長い形式があります。短い形式の前には、1つのハイフンがあり、長い形式の前には、2つのハイフンがあります。たとえば、`-n`と`--namefilter`はそれぞれフラグ付きオプションの短い形式と長い形式で、`bundle-list` コマンドの結果の表示を名前でもフィルタする場合に使用します。

**スイッチ**：値を取らないパラメータです。存在するだけで意味を持ちます。たとえば、`bundle-list` で `-recursive` スイッチを指定すると、サブフォルダの内容も表示するように指示したことになります。

**フラグされたオプション**：このパラメータは、オプションの値を設定するために使用されます。値は、オプションの短いフラグまたは長いフラグの後にスペースまたは等号記号を付けて指定します。例：`zman bundle-list -namefilter "bundle*" -r`

## 引数

コマンドの引数は通常、コマンド自体と同じ順序で並べます。たとえば、`server-add-bundle` の場合、`server` を最初に、`bundle` を2番目に指定します。

## 使用方法

このセクションでは、一般的なコマンド形式と規則について説明しています。

### 管理者

`zman` のすべてのアクションは、管理者のアクセス制限によって管理されています。最初のインストール中に作成された最初の管理者アカウントは、すべてのオブジェクトに対する権限を持ちます。作成する追加の管理者アカウントには、デフォルトで読み取り専用権限が与えられています。これらのアカウントには、管理するオブジェクトに対する権限が明示的に与えられている必要があります。

### ヘルプ

`zman` コマンドラインインタフェースには複数レベルのヘルプが用意されています。スクロール可能な出力の場合は、オペレーティングシステムネイティブの `more` コマンドを使用してヘルプをパイプラインします。

- 一番上のレベルでは、`zman` で使用可能なカテゴリのコマンドすべてとコマンドのグローバルオプションが一覧表示されます。  
例：`zman`
- すべてのカテゴリレベルで、`zman` で使用可能なコマンドすべてがカテゴリ（ワークステーション、サーバ、バンドル、ポリシーなど）別に整理されて一覧表示されます。  
例：`zman -h`
- 各カテゴリでは、そのカテゴリだけで使用可能なコマンドが一覧表示されます。  
例：`zman policy /?`
- 各コマンドレベルでは、特定のコマンドの使用法、詳しいヘルプ、および例が提供されます。  
例：`zman policy-list-help`
- `-h`、`--help`、`?`、`-?`、および `/?` は、使用可能なさまざまなヘルプオプションです。

## フォルダ

フォルダ引数を取るコマンドに対してフォルダが指定されていない場合、コマンドはルートフォルダをターゲットにします。フォルダパスを指定するには、スラッシュ (/) で区別されるルートからの各フォルダを一覧表示します。たとえば、ルートに `folder1` という名前のフォルダがあり、そのフォルダの中に `subfolder1` という名前のサブフォルダがある場合、このフォルダを `folder1/subfolder1` として参照します。指定した各フォルダは、すでに存在する必要があります。

## 必須の引数とオプションの引数

括弧 ( ) で囲まれた引数は必須で、角括弧 [ ] で囲まれた引数はオプションです。

## 省略記号 (...)

省略記号は、コマンドが最後の引数タイプのエントリを複数受け入れることを示します。引数は、コマンドに応じてスペースまたはカンマで区切る必要があります。例を次に示します。

```
zman server-add-bundle [options] (server) (bundle) [...]
```

この省略記号は、`server-add-bundle` が複数のバンドルを受け入れることができることを示しています。コマンドレベルのヘルプでは、複数エントリの引数ヘルプは、より明確に `[(bundle) (bundle) ... (bundle)]` として指定されます。

最後の引数のエントリを複数持つすべてのコマンドには、`--folder` オプションもあります。このオプションは、その引数のすべての項目が同じフォルダ内にある場合に便利です。項目のパスは、このフォルダパスを基準にして相対的に計算されます。例を次に示します。

```
zman server-add-bundle server1 bundlefolder/bundle1 bundlefolder/bundle2
```

これは次のようにも指定できます。

```
zman server-add-bundle server bundle1 bundle2 --folder bundlefolder
```

## ZENworks オブジェクトのパス

必要な引数が ZENworks オブジェクトのパスである場合、コマンドヘルプで絶対パスを入力するように指定されていない限り、パスはオブジェクトのルートフォルダを基準とし、スラッシュ (/) で区切った相対パスとして指定する必要があります。例を次に示します。

```
zman server-add-bundle serverfolder/server bundlefolder/bundle1
```

ここで、引数の絶対パスは、

`/devices/servers/serverfolder/server` および `/bundles/bundlefolder/bundle1` になります。

## ファイルへのオブジェクトのエクスポート

`bundle-export-to-file`、`policy-export-to-file`、および `settings-export-to-file` などの `zman` コマンドを使用すれば、それぞれバンドル、ポリシー、および設定の定義を、指定したファイルに XML フォーマットでエクスポートすることができます。ファイルは、指定した名前とファイル拡張子で作成されます。ファイル拡張子を指定しなかった場合には、デフォルトで `.xml` 拡張子が追加されます。これらのファイルを使用して、バンドル、ポリシー、および設定を作成することができます。

## アセット管理コマンド

これらのコマンドを使用して購入記録ファイルをロードし、コンプライアンスエンジンを更新します。ZENworks 10 Asset Management にのみ適用されます。

### asset-management-load-purchase-record (amlpr)

購入記録ファイルをロードします。Purchase Record Loader は購入記録ファイルを検索して、プライマリサーバの ZENWORKS\_HOME/temp/PurchaseRecordImport/uploaded フォルダにロードします。ZENworks コントロールセンターから Purchase Record Loader を使用したことがない場合は、このフォルダを作成する必要があります。

このコマンドは非同期です。つまり、zman はコマンドの終了を待たずにすぐに戻ることを意味しています。これはコマンドの実行に長時間かかるためです。ZENworks コントロールセンターからこのプロセスのステータスを確認できます。

### asset-management-refresh-compliance-data (amrcd)

ソフトウェアコンプライアンスエンジンを実行して、ソフトウェアライセンスコンプライアンスデータを更新します。

このコマンドは非同期です。つまり、zman はコマンドの終了を待たずにすぐに戻ることを意味しています。これはコマンドの実行に長時間かかるためです。ZENworks コントロールセンターからこのプロセスのステータスを確認できます。

## 管理者コマンド

これらのコマンドは、管理者アカウントの作成と管理に使用されます。管理者コマンドは、長い形式では admin- で始まり、短い形式では a で始まります。

次のコマンドはすべて、「[グローバルオプション](#)」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### admin-clear-credential (acc)

admin-store-credential コマンドを使用して、保存された ZENworks ユーザ名とパスワードをクリアします。コマンドの実行終了後は常に、安全のために、保存された資格情報を削除することをお勧めします。

### admin-create (ac) [options] (administrator or user)

ZENworks 管理者アカウントを作成します。

(administrator or user) - 管理者の名前またはユーザソースのユーザのフルパス。

次のオプションを受け入れます。

-f, --fullname=[full name] - ZENworks 管理者のフルネーム。

-a, --assign-same-rights - このコマンドを実行する管理者と同じ権限を新しい管理者に与えます。

クリアテキストでパスワードを入力することを防ぐために、コマンドによって、管理者のパスワードを入力するようプロンプトが表示されます。管理者アカウントが特定のユーザに基づいている場合、ユーザソースで定義された資格情報と同じ資格情報が使用されるため、コマンドの使用時にパスワードの入力が求められることはありません。

**admin-delete (ad) (ZENworks administrator name) [...]**

ZENworks 管理者アカウントを削除します。

(ZENworks administrator name) [...] - ZENworks 管理者の名前。引用符で囲まれている限り、ワイルドカード \* を使用できます。オブジェクトを削除するためにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

**admin-list (al) [options]**

ZENworks 管理者アカウントすべてを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果を表示します。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**admin-list-roles (alr) [options] (ZENworks administrator name)**

ZENworks 管理者に割り当てられている役割を一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-l, --longnames - 権限の名前を表示します。デフォルトでは、権限名は省略形式で表示されます。

**admin-rename (ar) (ZENworks administrator name) (new name)**

ZENworks 管理者アカウントの名前を変更します。

**admin-rights-delete (ard) [options] (ZENworks administrator name) [object path]**

ZENworks 管理者アカウントに割り当てられる権限を削除します。

[object path] [...] - スラッシュ (/) から始まる ZENworks オブジェクトのフルパス。

次のオプションを受け入れます。

-c, --category=[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、zman admin-rights-set --Help | more を実行します。

**admin-rights-info (ari) [options] (ZENworks administrator name) [object path]**

ZENworks 管理者アカウントに割り当てられる権限を表示します。

[object path] [...] - スラッシュ (/) から始まる ZENworks オブジェクトのフルパス。

次のオプションを受け入れます。

-c, --category=[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、zman admin-rights-set --Help | more を実行します。

-e, --effective - 管理者の有効な権限を表示します。有効な権限には、その管理者に割り当てられた役割から継承した権限が含まれます。このオプションを指定しなかった場合には、その管理者に直接割り当てられた権限だけが表示されます。

-l, --longnames - 権限の名前を表示します。デフォルトでは、権限名は省略形式で表示されます。

**admin-rights-set (ars) [options] [ZENworks administrator name] [rights category] [object path] [...]**

ZENworks 管理者アカウントの権限を許可または却下します。

[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、zman admin-rights-set --Help | more を実行します。

[object path] [...] - 権限を適用する ZENworks オブジェクトのフルパスで、スラッシュ (/) で始まります。各権限カテゴリ内で権限を割り当てることができる、許可されているオブジェクトタイプのオブジェクトのルートフォルダを表示するには、`zman admin-rights-modify --Help | more` を実行します。

次のオプションを受け入れます。

- a, --allow=[right ][...] - 許可されている権限の長い名前または短い名前のカンマ区切りリスト。各カテゴリの権限を表示するには、`zman admin-rights-modify --Help | more` を実行します。
- A, --assign-all - 権限カテゴリのすべての権限を許可します。
- d, --deny=[right ][...] - 拒否する権限の長い名前または短い名前のカンマ区切りリスト。各カテゴリの権限を表示するには、`zman admin-rights-modify --Help | more` を実行します。
- D, --deny-all - 権限カテゴリのすべての権限を拒否します。
- f, --folder=[folder name] - フォルダのフルパス。このオプションを指定すると、オブジェクトのパスは、このフォルダを基準とした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のオブジェクトを指定するために使用できます。
- H, --Help - 使用可能な権限カテゴリに関する詳しいヘルプおよび各カテゴリ内の権限名の長い形式と短い形式を表示します。カテゴリ名を指定した場合、そのカテゴリに関するヘルプが提供されます。

#### admin-store-credential (asc) (ZENworks administrator name)

各コマンドに使用する ZENworks ユーザ名とパスワードを保存し、資格情報をコマンドごとに入力する必要がなくなります。資格情報はログインユーザのホームディレクトリに保存され、ログインユーザのためにのみ使用されます。Linux では、ユーザがホームディレクトリを持っていることを確認してください。他の ZENworks 管理者と同じマシンログインを共有している場合は、コマンドの実行が終了したら、`admin-clear-credential` コマンドを使用して資格情報をクリアする必要があります。

## バッチコマンド

バッチコマンドは、テキストファイルから `zman` コマンドのリストを実行する場合に使用するユーティリティコマンドです。ZENworks へのログインは一度しか実行されず、すべてのコマンドごとに実行されるわけではないため、コマンドの実行が高速化されます。バッチコマンドは、長い形式では `batch-` から始まり、短い形式では `b` から始まります。

このコマンドは、「[グローバルオプション](#)」のセクションに一覧表示されたオプションフラグを受け入れます。さらに、コマンドと併せて一覧表示されている個々のオプションも受け入れます。

#### batch-execute (bex) [options] (file path) [...]

テキストファイルにある `zman` コマンドをバッチで実行します (Windows のバッチファイルと混同しないこと)。

(file path) [...] - 実行する `zman` コマンドを含むテキストファイルのパス。#、`rem`、`REM`、`;`、および `//` で始まる行はコメントとみなされ、処理されません。サンプルファイルとして、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/batch`、Windows サーバでは `Installation_path:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\batch` にある `BatchExecuteCommands.txt` を参照してください。

次のオプションを受け入れます。

-e, --exit-on-failure - コマンドが部分的または全体的に失敗した場合、コマンドの実行を停止し終了します。複数の引数を取るコマンドが、1つ以上の引数を正常に処理できなかった場合、コマンドは部分的に失敗したとみなされます。たとえば、`bundle-delete` の場合、引数の1つが見つからないか削除できないと、コマンドは部分的に失敗したとみなされます。デフォルトでは、ファイル内のコマンドは連続して実行され、失敗はチェックされません。

## バンドルコマンド

バンドルの作成、変更、および管理を行うコマンドです。バンドルコマンドは、長い形式では `bundle-` から始まり、短い形式では `b` から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。これらのコマンドは ZENworks 10 Configuration Management にのみ該当します。

### **bundle-add-actions (baa) [options] (bundle path) (action XML file) [...]**

バンドルにアクションを追加します。

(action XML file) [...] - 追加するアクションの情報が含まれた XML ファイル。アクションは、`Install`、`Launch`、`Verify`、`Uninstall`、`Terminate`、または `Preboot` のいずれかのアクションセットにグループ化されます。XML ファイルには ActionSet 要素が含まれ、アクションセットに対して追加するアクションの情報が記述されます。バンドルの別のアクションセットにアクションを追加する場合、複数の XML ファイルを入力として指定できます。XML ファイルを作成するには、`bundle-export-actions` コマンドを使用して既存のバンドルのアクションをエクスポートします。

次のオプションを受け入れます。

-a, --actioninfo=[content and dependency for actions] - ファイルコンテンツまたは別のバンドルへの従属関係を持つアクションのコンテンツおよびバンドル従属関係に関する情報が含まれた XML ファイル。たとえば、MSI のインストールアクションの場合、インストールされる MSI ファイルがファイルコンテンツです。バンドルのインストールアクションは、別のバンドルを依存関係として取得するため、これらのアクションを正常に機能させるにはこのデータも指定する必要があります。XML 形式のテンプレートについては、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles`、Windows サーバでは `Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles` にある `ActionInfo.xml` を参照してください。

### **bundle-assign (ba) [options] (device or user type) (bundle or bundle group) (device or user object path) [...]**

バンドルまたはバンドルグループを1つまたは複数のデバイスまたはユーザオブジェクトに割り当てます。

(device or user type) - 有効な値は、`device`、`server`、`workstation`、および `user` です。

(device or user object path) [...] - 指定したデバイスまたはユーザタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

次のオプションを受け入れます。



- f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。
- I, --icon-location=[application location XML file] - バンドルアプリケーション用のアイコンを配置する場所を含む XML ファイル。XML ファイル形式については、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles にある IconLocation.xml を参照してください。
- d, --distribution-schedule=[distribution schedule XML file] - 配布スケジュールを含む XML ファイル。
- l, --launch-schedule=[launch schedule XML file] - 起動スケジュールを含む XML ファイル。
- a, --availability-schedule=[availability schedule XML file] - アベイラビリティスケジュールを含む XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\schedules にある XML ファイルを参照してください。
- i, --install-immediately - 配布後ただちにバンドルをインストールします。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- L, --launch-immediately - インストール後ただちにバンドルを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- n, --distribute-now - バンドルをただちに配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule および --distribute-on-device-refresh オプションは無視されます。--distribute-now、--distribute-on-device-refresh、および --distribution-schedule オプションは配布スケジュールの設定に使用し、同時に使用することはできません。最初に --distribute-now オプションが考慮され、次に --distribute-on-device-refresh オプションが考慮され、最後に --distribution-schedule が考慮されます。
- r, --distribute-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule オプションは無視されます。
- s, --launch-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを起動するよう起動スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--launch-schedule オプションは無視されます。
- w, --wakeup-device-on-distribution - バンドルの配布中にデバイスがシャットダウンした場合、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- B, --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。

- S, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバオブジェクトのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。
- C, --retries=[Number of retries] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。
- T, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

**bundle-copy (bcp) [options] (bundle path) (bundle name) [parent folder]**

バンドルをコピーします。

次のオプションを受け入れます。

- d, --desc=[description] - バンドルの説明。
- i, --icon-file=[bundle icon file] - バンドルアイコンとして使用するイメージが含まれるイメージファイルのパス。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

**bundle-create (bc) [options] (bundle name) (bundle XML file) [parent folder]**

新しいバンドルを作成します。

(bundle XML file) - エクスポートしたバンドル情報が含まれる XML ファイル。bundle-export-to-file (betf) を使用して、既存のバンドルの情報を XML ファイルにエクスポートします。ファイルを再使用する場合には、ZENworks コントロールセンターで作成したバンドルからテンプレート XML ファイルを作成することができます。サンプル XML ファイルについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*: \Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles にある WindowsMSIBundle.xml を参照してください。

次のオプションを受け入れます。

- d, --desc=[description] - バンドルの説明。
- a, --actioninfo=[content and dependency for actions] - ファイルコンテンツまたは別のバンドルへの従属関係を持つアクションのコンテンツおよびバンドル従属関係に関する情報が含まれた XML ファイル。たとえば、MSI のインストールアクションの場合、インストールされる MSI ファイルがファイルコンテンツです。バンドルのインストールアクションは、従属関係として別のバンドルを取ります。これらのアクションを正常に機能させるには、このデータも指定する必要があります。XML 形式のテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*: \Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles にある ActionInfo.xml を参照してください。
- i, --icon-file=[bundle icon file] - バンドルアイコンとして使用するイメージが含まれるイメージファイルのパス。

**bundle-delete (bd) [options] (bundle object path) [...]**

1 つまたは複数のバンドルオブジェクトを削除します。

**(bundle object path) [...]** - /バンドルを基準にした、バンドルオブジェクト (バンドル、バンドルフォルダ、またはバンドルグループ) の相対パス。引用符で囲まれている限り、ワイルドカード \* を使用できます。オブジェクトを削除するのにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

次のオプションを受け入れます。

**-r, --recursive** - フォルダ内のオブジェクトを再帰的に削除します。

**-f, --folder=[bundle folder]** - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-disable (bdl) [options] (bundle path) [...]**

バンドルを無効にします。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[bundle folder]** - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-enable (bel) [options] (bundle path) [...]**

バンドルを有効にします。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[bundle folder]** - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-export-actions (bea) (bundle path) (XML file path) (action set type) [action's positions] [...]**

バンドルのアクションセットに追加したアクションをファイルにエクスポートします。このファイルを `bundle-add-actions` コマンドの入力として使用できます。

**(action set type)** - アクションセットのタイプ。このオプションを指定した場合、このアクションセットのアクションのみが一覧表示されます。有効な値は、Install、Launch、Verify、Uninstall、Terminate、および Preboot です。

**[action's positions] [...]** - アクションセット内におけるアクションの位置のカンマ区切りリスト。最初のアクションが位置 1 になります。アクションセット内の特定のアクションの位置を参照するには、`bundle-list-actions` コマンドを使用します。これはオプションですが、指定しなかった場合は、指定したアクションセット内のすべてのアクションがエクスポートされます。

#### **bundle-export-to-file (betf) (bundle path) (XML file path)**

バンドルの情報 (XML 形式) をファイルにエクスポートします。この XML ファイルはバンドル作成時の入力として使用します。

#### **bundle-folder-create (bfc) [options] (folder name) [parent folder]**

バンドルを格納するための新しいフォルダを作成します。

次のオプションを受け入れます。

`--desc=[description]` - フォルダの説明。

#### **bundle-group-add (bga) [options] (bundle group path) (bundle path) [...]**

バンドルをバンドルグループに追加します。

次のオプションを受け入れます。

`-f, --folder=[bundle folder]` - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-group-create (bgc) [options] (group name) [parent folder]**

バンドルグループを作成して、メンバーを追加します。

次のオプションを受け入れます。

`--desc=[description]` - グループの説明。

`-m, --members=[bundle path][...]` - /バンドルを基準にした、バンドルの相対パス。

`-f, --folder=[bundle folder]` - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-group-members (bgm) [options] (bundle group path)**

バンドルグループのメンバーを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

`-s, --scrollsize=[scrollsize]` - 一度に表示させる結果の数。

#### **bundle-group-remove (bgr) [options] (bundle group path) (bundle path) [...]**

バンドルグループからバンドルを削除します。

次のオプションを受け入れます。

`-f, --folder=[bundle folder]` - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-increment-version (biv) [options] (bundle path) [...]**

バンドルのバージョンを増やします。

次のオプションを受け入れます。

`-f, --folder=[bundle folder]` - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **bundle-list (bl) [options] [folder]**

バンドルオブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。
- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード\* および?を使用できます。
- c, --count - 結果の数が表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **bundle-list-actions (bla) (bundle path) [action set type]**

バンドルに追加されたアクションを一覧にします。

[action set type] - アクションセットのタイプ。このオプションを指定した場合、このアクションセットのアクションのみが一覧表示されます。有効な値は、Install、Launch、Verify、Uninstall、Terminate、および Preboot です。

#### **bundle-list-assignments (blas) [options] (bundle or bundle group)**

バンドルのデバイスとユーザ割り当てを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- t, --typefilter=[assignment type] - 割り当てタイプでフィルタします。有効な値は、device および user です。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

#### **bundle-move (bmv) (bundle object path) [destination folder path]**

バンドルオブジェクトを別のフォルダに移動します。

#### **bundle-remove-actions (bra) (bundle path) (action set type) [action's positions] [...]**

バンドルからアクションを削除します。

(action set type) - アクションが含まれるアクションセットのタイプ。有効な値は、Install、Launch、Verify、Uninstall、Terminate、および Preboot です。

[action's positions] [...] - アクションセット内におけるアクションの位置のカンマ区切りリスト。最初のアクションが位置 1 になります。アクションセット内の特定のアクションの位置を参照するには、bundle-list-actions コマンドを使用します。これはオプションですが、指定しなかった場合は、指定したアクションセット内のすべてのアクションが削除されます。

#### **bundle-rename (br) (bundle object path) (new name)**

バンドルオブジェクトを名前変更します。

#### **bundle-reorder-actions (broa) (bundle path) (action set type) (current position) (new position)**

バンドルのアクションセット内にあるアクションを並べ替えます。

(action set type) - アクションが含まれるアクションセットのタイプ。有効な値は、Install、Launch、Verify、Uninstall、Terminate、および Preboot です。

#### **bundle-unassign (bua) [options] (device or user type) (bundle or bundle group) (device or user object path) [...]**

バンドルまたはバンドルグループを 1 つまたは複数のデバイスまたはユーザオブジェクトから割り当て解除します。

(device or user type) - 有効な値は、device、server、workstation、および user です。

(device or user object path) [...] - 指定したデバイスまたはユーザタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[bundle folder]** - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

**bundle-update-assignment (bupa) [options] (device or user type) (bundle or bundle group) (device or user object path) [...]**

バンドルまたはバンドルグループとデバイスまたはユーザオブジェクト間の割り当てを更新します。

(device or user type) - 有効な値は、device、server、workstation、および user です。

(device or user object path) [...] - 指定したデバイスまたはユーザタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[device or user folder]** - ルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスまたはユーザオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスまたはユーザオブジェクトを指定するのに使用できます。

**-I, --icon-location=[application location XML file]** - バンドルアプリケーション用のアイコンを配置する場所を含む XML ファイル。XML ファイル形式については、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\ bundles にある IconLocation.xml を参照してください。

**-d, --distribution-schedule=[distribution schedule XML or NoSchedule]** - 配布スケジュール、またはスケジュールを削除する必要がある場合に NoSchedule 値を指定する XML ファイル。

**-l, --launch-schedule=[launch schedule XML file or Noschedule]** - 起動スケジュール、またはスケジュールを削除する必要がある場合に NoSchedule 値を指定する XML ファイル。

**-a, --availability-schedule=[availability schedule XML file or Noschedule]** - 可用性スケジュール、またはスケジュールを削除する必要がある場合に NoSchedule 値を指定する XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\ schedules にある XML ファイルを参照してください。

**-i, --install-immediately=[yes or no]** - 配布後ただちにバンドルをインストールするか、またはバンドルの割り当て中に設定された同じオプションを取り消します。有効な値は、true または yes、および false または no です。

**-L, --launch-immediately=[yes or no]** - インストール後ただちにバンドルを起動するか、またはバンドルの割り当て中に設定された同じオプションを取り消します。有効な値は、true または yes、および false または no です。

**-n, --distribute-now=[yes or no]** - バンドルをただちに配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule および --distribute-on-device-refresh オプションは無視されます。--distribute-now、--distribute-on-device-refresh、および --distribution-schedule オプションは配布スケジュールの設定に使用し、同時に使用することはできません。最初に --distribute-now オプションが考慮され、次に --distribute-on-device-refresh オプションが考慮され、最後に --distribution-schedule が考慮されます。

- r, --distribute-on-device-refresh=[yes or no] - デバイス更新時にバンドルを配布するよう配布スケジュールを設定するか、またはバンドルの割り当て中に設定された同じオプションを取り消します。有効な値は、true または yes、および false または no です。このオプションの値が true または yes の場合、--distribution-schedule オプションは無視され、以前設定された配布スケジュールが上書きされます。
- s, --launch-on-device-refresh=[yes or no] - デバイス更新時にバンドルを起動するよう起動スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--launch-schedule オプションは無視されます。
- w, --wakeup-device-on-distribution=[yes or no] - バンドルの配布中にデバイスがシャットダウンした場合、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動するか、またはバンドルの割り当て中に設定された同じオプションを取り消します。有効な値は、true または yes、および false または no です。
- B, --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。
- S, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバオブジェクトのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。
- C, --retries=[Number of retries] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。
- T, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

#### **bundle-view-advanced-deployment-status (bvads) [options] (bundle path)**

バンドルの展開ステータスの詳細を表示します。

次のオプションを受け入れます。

- d, --device=[device path] - 指定されたデバイスのみに対する配布ステータスを表示します。デバイスのパスは、/デバイスを基準にした相対パス。
- u, --user=[user path] - 指定したユーザーのみの配布ステータスを表示します。ユーザーのパスは、/ユーザーを基準にした相対パス。デバイスも指定した場合、指定したデバイスにログインしている指定したユーザーのステータス詳細が表示されます。
- n, --namefilter=[target device name] - デバイスの名前です。指定したフィルタに一致するオプションを表示します。引用符で囲まれている限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。
- statusfilter=[status type][...] - バンドルの配布イベントおよびインストールイベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。
- t, --typefilter=[target device or user type][...] - ターゲットのタイプでフィルタします。有効な値は、server、workstation、および user です。ターゲットタイプのカンマ区切りリストを指定できます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**bundle-view-assignment-schedule (bvas) (device or user type) (bundle or bundle group) (device or user object path)**

デバイスまたはユーザオブジェクトに割り当てたバンドルの展開スケジュールを表示します。

(device or user type) - 有効な値は、device、server、workstation、および user です。

(device or user object path) [...] - バンドルグループの割り当て先を基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

**bundle-view-summary-totals (bvst) (bundle path)**

バンドルの展開ステータスの概要を表示します。

## 証明書の権限コマンド

ZENworks サーバの証明書の権限ロールを管理するコマンドです。証明書の権限コマンドは、長い形式では certificate-authority- から始まり、短い形式では ca から始まります。

**certificate-authority-export (certificate-authority-export/cae) [options] (file path)**

ゾーン認証局のキーペアの資格情報をファイルにエクスポートし、ローカルサーバの認証局の役割を無効にします。

次のオプションを受け入れます。

-d, --disable-CA-role - ローカルサーバの証明書の権限ロールを削除します。

**certificate-authority-import (certificate-authority-import/cai) (file path)**

ゾーン証明書権限と資格情報のキーの組み合わせをファイルからインポートして、ローカルサーバの証明書の権限ロールを有効にします。

**certificate-authority-role-disable (card)**

ローカルサーバの証明書の権限ロールを無効にします。

**certificate-authority-role-enable (care)**

ローカルサーバの証明書の権限ロールを有効にします。

## 資格情報コマンド

これらのコマンドは、リソースに対する認証が必要な特定の ZENworks アクションやタスクに必要な資格情報を管理する場合に使用します。資格情報コマンドは、長い形式では credentials- から始まり、短い形式では cr から始まります。

**credentials-create (crc) (credentialName [folder]) (--username) [--password] [--desc]**

資格情報を作成します。

次のオプションを受け入れます。

-u, --user - リソースにアクセスするためのユーザ名。

--password - リソースにアクセスするために使用するパスワード。

-d, --desc - 資格情報の説明。

**credentials-delete (crd) (credentialPath)**

資格情報を削除します。



### **credentials-folder-create (cfc) [options] (folder name) [parent folder]**

資格情報を格納するための新しいフォルダを作成します。

次のオプションを受け入れます。

--desc=[description] - フォルダの説明。

### **credentials-list (crl) [folder]**

資格情報を一覧表示します。

### **credentials-rename (crr) (credentialPath) (newcredentialPath)**

資格情報の名前を変更します。

### **credentials-update (cru) (--username) [--password] [--desc]**

資格情報を作成します。

次のオプションを受け入れます。

-u, --user - リソースにアクセスするためのユーザ名。

--password - リソースにアクセスするために使用するパスワード。

-d, --desc - 資格情報の説明。

## データベースコマンド

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを管理するコマンドです。データベースコマンドは、長い形式では database- から始まり、短い形式では d から始まります。

### **database-backup (db) [options] (backup directory) [schedule SQL file]**

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップします。バックアップ操作のスケジュールも行えます。

(backup directory) - データベースファイルがバックアップされるデータベースサーバのローカルディレクトリ。親ディレクトリがすでに存在し、十分なディスク容量があるようにします。ディレクトリ内のどの既存のデータベースファイルも上書きされません。

[schedule SQL file] - ファイルコンテナスケジュールデータベースをバックアップするスケジュールが含まれるファイル。SQL ファイルには、CREATE EVENT、ALTER EVENT、または DROP EVENT の SQL ステートメントが含まれていることがあります。サンプル SQL ファイルについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database、Windows サーバでは

*Installation\_directory*: \Novell\Zenworks\share\zman\samples\database にあるファイルを参照してください。スケジュールファイルを指定しない場合は、データベースはただちにバックアップされます。スケジュール定義の詳細は、<http://infocenter.sybase.com/help/index.jsp?topic=/com.sybase.dbdaen10/html/title.htm> にある SQL Anywhere のマニュアルを参照してください。

次のオプションを受け入れます。

-d, --dir-name=[SQL function call] - 値を返す SQL 関数コール。値は、バックアップディレクトリパスに追加されます。たとえば、このコマンドが火曜日に実行され、バックアップディレクトリは c:\ に指定され、このオプションの値が DAYNAME(today()) と指定されている場合、ファイルは c:\Tuesday にバックアップされます。

## database-get-credentials (dgc)

組み込み Sybase SQL Anywhere データベースに接続するのに使用する資格情報を取得します。

## 展開コマンド

展開タスクを実行するコマンドです。展開コマンドは、長い形式では `deployment-` から始まり、短い形式では `dp` から始まります。

### deployment-task-abort (dpta) (deployment task name) [...]

展開タスクを中断します。

### deployment-task-create (dptc) [options] (deployment task name) (user credential file) [IP address/DNS name] [...]

展開タスクを作成し、IP アドレスまたは DNS 名を使用して、ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開します。

(user credential file) - デバイスに接続するための資格情報を含むファイルのパス。ファイルの各行には、ユーザ名とパスワードをスペースで区切って指定する必要があります。たとえば、「administrator password」のようになります。

次のオプションを受け入れます。

- f, --file=[IP address file][...] - ZENworks Adaptive Agent の展開先デバイスの IP アドレスまたは DNS 名を含むファイルパスのカンマ区切りリスト。ファイルには、カンマ区切り値 (CSV) 形式でデバイスの IP アドレスまたは DNS 名のリストを含めるか、各行に IP アドレスまたは DNS 名を 1 つ含めることができます。
- s, --schedule=[launch schedule XML file] - 起動スケジュールを含む XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules`、Windows サーバでは `Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\schedules` にある XML ファイルを参照してください。スケジュールファイルまたは `--run-now` オプションが指定されていない場合、タスクの実行はスケジュールされません。
- r, --run-now - 展開タスクを作成後ただちに実行するようにスケジュールします。
- b, --reboot=[Reboot option] - エージェントの展開後にデバイスを再起動するタイミングを指定します。有効な値は、`immediate` および `manual` です。
- d, --desc=[description] - 展開タスクの説明。
- p, --proxy=[Windows Proxy] - /デバイスを基準にした、Windows デバイスの相対パス。管理エージェントを Linux プライマリサーバから Microsoft Windows デバイスに展開するには、Microsoft Windows を実行している管理対象デバイスが必要です。Windows プライマリサーバから展開タスクを実行する場合には、このオプションは無視されます。
- t, --timeout=[Time out] - プライマリサーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。
- k, --key=[Registration key] - デバイスを登録するための登録キー。

### deployment-task-delete (dptd) (deployment task name) [...]

展開タスクを削除します。

### deployment-task-list (dptl) [options]

展開タスクとステータスを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果を表示します。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。
- c, --count - 結果の数が表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### deployment-task-run-now (dptrn) (deployment task name) [...]

指定された展開タスクをスケジュールして、ただちに実行します。タスクの資格情報がデータストアに保存されている必要があります。

## ディスカバリコマンド

これらのコマンドは、デバイスのディスカバリ関連情報を表示する場合に使用します。ディスカバリコマンドは、長い形式では discovery- から始まり、短い形式では d から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

#### discovery-view-discovered-devices (dvdd) [options]

検出されたデバイスを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- n, --nameFilter=[filter string] - 指定したフィルタに当てはまるデバイスを表示します。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* を使用できます。
- t, --typefilter=[type filter] - 指定したタイプに当てはまるオプションを表示します。有効な値は、server、workstation、printer、network、thinclient、other、unknown、および deployable です。このオプションを指定していない場合、すべてのタイプのデバイスが表示されます。
- o, --osfilter=[operating system] - 指定した OS がインストールされているデバイスを表示します。有効な値は、other、win9x、winnt、wince、win2k、win2k3、winxp、nw6、nw6\_5、nwoes、suse、sles、nld、rh\_es、および rh\_as です。指定しない場合、すべてのデバイスが表示されます。
- m, --management-status=[management status] - 指定したステータスを持つデバイスを表示します。有効な値は、discovered、inventoried、managed、および retired です。指定しない場合、ステータスにかかわらずすべてのタイプのデバイスが表示されます。
- modefilter=[discovery mode] - 特定のディスカバリモードを使用して検出されたデバイスを表示します。有効な値は、IP、LDAP、csvimport、ZENworks-migration、および ZAM-migration です。指定しない場合、すべてのデバイスが表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### discovery-task-list (dtl) [options]

ディスカバリタスクとステータスを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果を表示します。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

### **discovery-task-run-now (dtrn) (discovery task name)**

指定した検出タスクをただちに実行します。

## **ダイナミックグループコマンド**

これらのコマンドは、ダイナミックグループの表示、グループメンバーの表示、およびグループの更新を行う場合に使用します。ダイナミックグループコマンドは、長い形式では `dynamic-group-` から始まり、短い形式では `dg` から始まります。

### **dynamic-group-list (device type) [folder] [-n|--namefilter=filter string] [-s|--scrollsize=scroll size] [-r|--recursive] [-c|--count]**

ダイナミックグループを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

(device type) - 有効な値は `server` および `workstation` です。

[folder] - 指定したフォルダの内容を一覧表示します。指定しなかった場合には、ルートフォルダの内容が表示されます。

[-n|--namefilter=filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード `*` および `?` を引用符で囲まれている限りは使用できません。

[-s|--scrollsize=scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

[-r|--recursive] - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

[-c|--count] - 結果の数を表示します。

### **dynamic-group-members (device type) (dynamic group name) [path of the dynamic group folder] [-s|--scrollsize=scroll size]**

指定したダイナミックグループのメンバーを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

(device type) - 有効な値は `server` および `workstation` です。

(dynamic group name) - ダイナミックグループの名前。

[path of the dynamic group folder] - ダイナミックグループのパス。完全なパスを指定することも、ルートフォルダを基準にした相対パスを指定することもできます。

[-s|--scrollsize=scroll size] - 一度に表示される結果の数。

### **dynamic-group-refresh (device type) [(dynamic group name) (dynamic group name) ... (dynamic group name)] [-f|--folder=folder name including path of the dynamic group folder] [-a|--all]**

指定したダイナミックグループを更新します。

次のオプションを受け入れます。

(device type) - 有効な値は `server` および `workstation` です。

(dynamic group name) - ダイナミックグループの名前。複数のグループを一覧表示することができます。

[-f|--folder=folder name including path of the dynamic group folder] - フルパスを含む、ダイナミックグループのフォルダ名。

[-a|--all] - 既存のダイナミックグループをすべて更新します。

## ホットリストコマンド

このコマンドは、未確認の警告またはエラーを持つデバイスのリストを表示する場合に使用します。Hotlist コマンドは、長い形式では hotlist- から始まり、短い形式では hl から始まります。

次のコマンドはすべて、「[グローバルオプション](#)」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### hotlist-view (hlv) [options]

未確認の警告またはエラーを持つデバイスのリストを表示します。

次のオプションを受け入れます。

- c, --count - ホットリスト項目の数のみを表示します。
- t, --type=[error type] - ホットリスト項目のエラータイプでフィルタします。有効な値は、Noncompliant、Critical、および Warning です。
- o, --operator=[comparison operator] - 指定した場合、この演算子はエラーカウントベースのフィルタリングで使用されます。有効な値は、>、>=、=、<、および <= です。システムが > および < をリダイレクション演算子と誤認識しないよう、これらの演算子は引用符で囲んでください。
- e, --errorcount=[error count] - 指定したエラータイプの数を基準にフィルタします。比較演算子を指定しなかった場合、>= がデフォルトで使用されます。エラータイプが指定されていない場合、この数は不適合エラー、重大エラー、および警告エラーの合計とみなされます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。警告またはエラーは、messages-acknowledge コマンドを使用して承認できます。デバイスの警告またはエラーすべてがいったん未承認になると、メッセージはホットリストには今後は表示されなくなります。

## イメージングコマンド

これらのコマンドは、イメージング操作を実行する場合に使用します。イメージングコマンドは、長い形式では imaging- から始まり、短い形式では i から始まります。

### imaging-apply-assigned-imaging-bundle (iaib) (Device type) (Device name) <Device name> ... <Device name>

最も効果的なイメージングバンドルを適用します。

次のオプションを受け入れます。

(Device type) - 有効な値は server および workstation です。

(Device name) - サーバまたはワークステーションオブジェクトの名前。

たとえば、割り当てられたイメージングバンドルを server1 という名前のサーバに適用するには、次のコマンドを実行します。

```
zman iaib server server1
```

デバイスオブジェクトがフォルダ内にある場合は、次のコマンドを使用します。

```
iaib (Device type) (folder/path of device)/(Device name)
```

ここで folder/path of device は、Workstation または Server フォルダ内のデバイスの相対パス。

ディレクトリ内に複数のワークステーションがあり、ワークステーション名の前にアルファベット数字 (dev091、dev092、...dev099 など) が付いている場合は、Linux サーバから次のコマンドを使用して、割り当てられたイメージングバンドルを複数のデバイスに同時に適用します。

```
zman iaai workstation folderx/dev{09{1,2,3,4,5,6,7,9}}
```

バンドルはデバイス dev091、dev092、などに適用されます。

## インベントリコマンド

スキャンを初期化して、管理対象デバイスにインベントリデータコレクションフォームを送信するために使用するコマンドです。インベントリコマンドは、長い形式では inventory- から始まり、短い形式では i から始まります。

### inventory-collection-wizard-run-now (icwrn) [options] (device object path) [...]

インベントリデータコレクションフォームを 1 つ以上のデバイスに送信します。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[device folder] - / デバイスを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

### inventory-scan-now (isn) [options] (device object path) [...]

1 つ以上のデバイスのインベントリスキャンを実行します。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[device folder] - / デバイスを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

## ライセンスコマンド

これらのコマンドは、ZENworks サーバを有効化したり、ライセンス情報を表示したりする場合に使用します。ライセンスコマンドは、長い形式では license- から始まり、短い形式では l から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### license-activate (la) (product name) (license key)

ZENworks 製品を有効化します。

### license-deactivate (ld) (product name)

ZENworks 製品を非アクティブ化します。引数として製品名だけが必要です。

### license-info (li)

ライセンス情報を表示します。

### license-refresh (lr)

通常 1 日 1 回更新される、保存されているライセンスキャッシュをシステムに更新させます。このコマンドを使用すると、評価版ライセンスの期限が切れ、キャッシュに反映されていない場合など、いつでもキャッシュを更新できます。

### license-show-active-components (lsac)

既知のすべての ZENworks Configuration Management コンポーネントと DataModel プラグインの現在のライセンスステータスを一覧にします (2 つのそれぞれのリスト)。

## メッセージコマンド

メッセージの表示と管理を行うコマンドです。メッセージコマンドは、長い形式では message- から始まり、短い形式では m から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### messages-acknowledge (ma) [options] [object path] [log id] [...]

ZENworks 管理対象デバイス、バンドル、またはポリシーに関連するメッセージを確認します。

[object path] - メッセージに関連しているオブジェクトのフルパス。オブジェクトは、サーバ、ワークステーション、バンドル、またはポリシーのいずれかになります。

次のオプションを受け入れます。

- b, --begin-date=[message logged date] - この日付以降にログされたメッセージを確認します。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。
- e, --end-date=[message logged date] - この日付以前にログされたメッセージを確認します。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。
- a, --all - オブジェクトに対してログされたメッセージをすべて確認します。オブジェクトが指定されていない場合、ログ記録されたすべてのメッセージが確認されます。
- l, --logID=[log id][...] - 確認するメッセージのログ ID をカンマで区切って指定します。ログ ID は、messages-view コマンドを使用して取得できます。
- L, --logID-file=[file path] - メッセージログ ID を含むファイルのパス。ファイルの各行には 1 つのメッセージログ ID が含まれている必要があります。ログ ID を入力するには、このオプションを --log-ID オプションの代わりに使用します。

### messages-delete (md) [options] [object path]

ZENworks 管理デバイスに関連するメッセージを削除します。

[object path] - メッセージに関連しているオブジェクトのフルパス。オブジェクトは、サーバ、ワークステーション、バンドル、またはポリシーのいずれかになります。

次のオプションを受け入れます。

- b, --begin-date=[message logged date] - この日付以降にログされたメッセージを削除します。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。
- e, --end-date=[message logged date] - この日付以前にログされたメッセージを削除します。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。

- l, --logID=[log ID][...] - 削除するメッセージのログ ID をカンマで区切って指定します。ログ ID は、messages-view コマンドを使用して取得できます。
- L, --logID-file=[file path] - メッセージログ ID を含むファイルのパス。ファイルの各行には 1 つのメッセージログ ID が含まれている必要があります。ログ ID を入力するには、このオプションを --log-ID オプションの代わりに使用します。

#### messages-view (mv) [options] [object path]

ZENworks 管理デバイス、バンドル、またはポリシーに関連するメッセージのリストを表示します。

- S, --severity=[severity [ ...]] - メッセージの重大度でフィルタします。有効な値は、critical、warning、および info です。
- t, --type=[message type] - メッセージのソースでフィルタします。有効な値は、server および client です。server でフィルタすると、ZENworks サーバによって生成されたメッセージのリストが表示されます。client でフィルタすると、そのデバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって生成されたメッセージのリストが表示されます。
- D, --date-condition=[date condition] - 日付範囲に基づいてメッセージをフィルタします。有効な値は、before、since、および between です。日付を指定するには --begin-date オプションおよび --end-date オプションを指定します。日付条件が使用され、日付が指定されていない場合は、現在の日付がデフォルトで使用されます。
- b, --begin-date=[message logged date] - メッセージがログされた日付。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。このオプションは日付条件オプションとともに使用する必要があります。日付条件が指定されていない場合は、この日付以前のメッセージが表示されます。
- e, --end-date=[message logged date] - メッセージがログされた日付。日付の形式は、YYYY-MM-DD です。日付条件オプションの値として between を指定する場合は、このオプションを指定する必要があります。
- a, --acknowledged - 確認されたメッセージでフィルタします。
- n, --not-acknowledged - 確認されていないメッセージでフィルタします。
- m, --messagefilter=[localized message] - ローカライズされたメッセージでフィルタします。
- c, --count - メッセージ数のみ表示します。
- o, --sort-order=[sort order] - 日付、重大度、および承認に基づいてメッセージをソートします。
- A, --asc - ソート済みリストのソート方向を指定します。デフォルトは降順です。
- d, --detailed - メッセージに関する詳細を返します。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

## オブジェクトコマンド

ZENworks オブジェクトで操作するユーティリティまたは便利なコマンドです。オブジェクトコマンドは、長い形式では object- から始まり、短い形式では o から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。



### **object-get-GUID (ogg) (object path)**

ZENworks オブジェクトの GUID を取得します。

(object path) - スラッシュ (/) から始まる ZENworks オブジェクトのフルパス。

### **object-get-path (ogp) (ZENworks GUID)**

指定した GUID を持つ ZENworks オブジェクトのパスを取得します。

(ZENworks GUID) - オブジェクトの ZENworks GUID で、32 文字から構成されます。

## **ポリシーコマンド**

ポリシーの作成、変更、および管理を行うコマンドです。ポリシーコマンドは、長い形式では policy- から始まり、短い形式では p から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### **policy-assign (pa) [options] (device or user type) (policy or policy group) (device or user object path) [...]**

ポリシーまたはポリシーグループを 1 つまたは複数のデバイスまたはユーザオブジェクトに割り当てます。

(device or user type) - 有効な値は、device、server、workstation、および user です。

(device or user object path) [...] - 指定したデバイスまたはユーザタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

-c, --conflicts=[policy conflict resolution order] - ポリシーの競合の解決方法を決定します。有効な値は、userlast または 1、devicelast または 2、deviceonly または 3、useronly または 4 です。userlast の場合、デバイスに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからユーザに関連付けられたポリシーが適用されます。devicelast の場合、ユーザに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからデバイスに関連付けられたポリシーが適用されます。deviceonly の場合、ユーザに関連付けられたポリシーは無視されます。useronly の場合、デバイスに関連付けられたポリシーは無視されます。このオプションを指定しなかった場合には、userlast がデフォルト値として使用されます。

-e, --enforce-now - 割り当てられているすべてのデバイスに対してポリシーをただちに強制的に適用します。

-f, --folder=[device or user folder] - それぞれのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスまたはユーザオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスまたはユーザオブジェクトを指定するのに使用できません。

### **policy-create (pc) [options] (policy name) (policy XML file) [parent folder]**

ポリシーを作成します。

(policy XML file) - エクスポートしたポリシー情報が含まれる XML ファイル。policy-export-to-file (petf) を使用して、ポリシーの情報を XML ファイルにエクスポートします。ファイルを再使用する場合には、ZENworks コントロールセンターで作成したポリシーからテンプレート XML ファイルを作成することができます。

次のオプションを受け入れます。

- d, --desc=[description] - ポリシーの説明。
- a, --actioninfo=[file content for policy] - ポリシーに関連付けられ、パッケージ化されたファイルコンテンツに関する情報が含まれた XML ファイル。たとえば、プリンタポリシーに対してインストールするドライバファイルはファイルコンテンツです。XML 形式のテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/policies、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\policies にある ActionInfo.xml ファイルを参照してください。

#### **policy-copy (pcp) [options] (policy path) (policy name) [parent folder]**

ポリシーをコピーします。  
次のオプションを受け入れます。

- d, --desc=[description] - ポリシーの説明。

#### **policy-delete (pd) [options] (policy object path) [...]**

1 つまたは複数のポリシーオブジェクトを削除します。

(policy object path) [...] - / ポリシーを基準にした、ポリシーオブジェクト (ポリシー、ポリシーフォルダ、またはポリシーグループ) の相対パス。ワイルドカード \* は、引用符で囲まれている場合には、オブジェクト名に使用できます。オブジェクトを削除するのにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - フォルダ内のオブジェクトを再帰的に削除します。
- f, --folder=[policy folder] - / ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **policy-disable (pdl) [options] (policy path) [...]**

ポリシーを無効にします。  
次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[policy folder] - / ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **policy-enable (pel) [options] (policy path) [...]**

ポリシーを有効にします。  
次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[policy folder] - / ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **policy-export-to-file (petf) (policy path) (XML file path)**

ポリシーの情報 (XML 形式) をファイルにエクスポートします。この XML ファイルはポリシー作成時の入力として使用します。

**policy-folder-create (pfc) [options] (folder name) [parent folder]**

ポリシーを格納するための新しいフォルダを作成します。  
次のオプションを受け入れます。

--desc=[description] - フォルダの説明。

**policy-group-add (pga) [options] (policy group path) (policy path) [...]**

ポリシーグループにポリシーを追加します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**policy-group-create (pgc) [options] (group name) [parent folder]**

ポリシーグループを作成して、メンバーを追加します。  
次のオプションを受け入れます。

--desc=[description] - グループの説明。

-m, --members=[policy path][...] - /ポリシーを基準にした、ポリシーの相対パス。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**policy-group-members (pgm) [options] (policy group path)**

ポリシーグループのメンバーを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

**policy-group-remove (pgr) [options] (policy group path) (policy path) [...]**

ポリシーグループからポリシーを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**policy-increment-version (piv) [options] (policy path) [...]**

ポリシーのバージョンを増やします。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

### **policy-list (pl) [options] [folder]**

ポリシーオブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。
- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。ワイルドカード \* および ? は引用符で囲まれている限りは使用できます。
- c, --count - 結果の数が表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

### **policy-list-assignments (plas) [options] (policy or policy group)**

ポリシーのデバイスとユーザ割り当てを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- t, --typefilter=[assignment type] - 割り当てタイプでフィルタします。有効な値は、device および user です。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

### **policy-list-groups (plg) [options] (policy path)**

指定したポリシーがメンバーであるグループのリストを表示します。

次のオプションを受け入れます。

- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

### **policy-move (pmv) (policy object path) [destination folder path]**

ポリシーオブジェクトを別のフォルダに移動します。

### **policy-rename (pr) (policy object path) (new name)**

ポリシーオブジェクトを名前変更します。

### **policy-unassign (pua) [options] (device or user type) (policy or policy group) (device or user object path) [...]**

ポリシーまたはポリシーグループを 1 つまたは複数のデバイスまたはユーザオブジェクトから割り当て解除します。

(device or user type) - 有効な値は、device、server、workstation、および user です。

(device or user object path) [...] - 指定したデバイスまたはユーザタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザオブジェクトの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[device or user folder] - ルートフォルダを基準にした、デバイスまたはユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスまたはユーザオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスまたはユーザオブジェクトを指定するのに使用できます。

### **policy-view-advanced-deployment-status (pvads) [options] (policy path)**

ポリシーの展開ステータスの詳細を表示します。

次のオプションを受け入れます。

- d, --device=[device path] - 指定されたデバイスのみに対する配布ステータスを表示します。デバイスのパスは、/デバイスを基準にした相対パス。
- u, --user=[user path] - 指定したユーザのみの展開ステータスを表示します。ユーザのパスは、/ユーザを基準にした相対パス。デバイスも指定した場合、指定したデバイスにログインしている指定したユーザのステータス詳細が表示されます。
- n, --namefilter=[target device name] - デバイスの名前でフィルタします。指定したフィルタに一致するオプションを表示します。ワイルドカードの \* および ? は、引用符で囲まれている限りは使用できます。
- statusfilter=[status type][...] - ポリシー適用イベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。
- t, --typefilter=[target device or user type][...] - ターゲットのタイプでフィルタします。有効な値は、server、workstation、および user です。ターゲットタイプのカンマ区切りリストを指定できます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **policy-view-summary-totals (pvst) (policy path)**

ポリシーの展開ステータスの概要を表示します。

## クエリコマンド

これらのコマンドは、保存された検索を一覧表示したり、実行したりする場合に使用します。クエリコマンドは、長い形式では query- から始まり、短い形式では q から始まります。

#### **query-list-savedsearches|qls [-d|--detailed]**

保存された検索を一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

**[-d, --detailed]** - 保存された検索のフィルタ基準を一覧表示します。

#### **query-run-savedsearch|qrs (saved search) [folder path] [-r|--recursive] [-s|--scrollsize=scroll size]**

保存された検索を実行します。

次のオプションを受け入れます。

**(saved search)** - 実行する、保存された検索。

**[folder path]** - /デバイスを基準にした、検索を実行するデバイスフォルダの相対パス。デフォルトのフォルダは /デバイスです。

**[-r|--recursive]** - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

**[-s|--scrollsize=scroll size]** - 一度に表示される結果の数。

## キューコマンド

これらのコマンドは、キューを変更する必要がある場合に使用します。キューは、クライアント更新やコンテンツクリーンアップなどの非同期イベントを処理し、多くの場合には変更する必要がありません。キューコマンドは、長い形式では queue- から始まり、短い形式では q から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

#### **queue-flush (qf) (queue status)**

キューエントリを削除してキュー内容を消去します。

(queue status) [...] - キューエントリのステータスでフィルタします。有効な値は、N、I、C、S、および F (New、In Progress、Cancelled、Success、および Failed) です。

#### **queue-list (ql) [options] [server path]**

キューエントリを一覧表示します。

[server path] - /デバイス/サーバを基準にした、サーバの相対パス。特定のサーバに属するキューエントリのみ一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-t, --type=[queue action type] - キューエントリのタイプでフィルタします。たとえば、content.cleanup はキューエントリのタイプです。

-s, --status=[queue status] - キューエントリのステータスでフィルタします。有効な値は、N、I、C、S、および F (New、In Progress、Cancelled、Success、および Failed) です。

#### **queue-reset (qr) [server path]**

キューをリセットし、失敗したキューエントリのステータスを New にセットします。

[server path] - /デバイス/サーバを基準にした、サーバの相対パス。特定のサーバに属するキューエントリのみリセットします。

## 登録コマンド

登録の作成と変更を行うコマンドです。デバイスタイプを指定する必要があります。登録キーが関連付けられるデバイスフォルダとデバイスグループのタイプが決定されるので、登録デバイスのタイプも決定されます。登録コマンドは、長い形式では registration- から始まり、短い形式では r から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

#### **registration-add-device-groups (radg) [options] (device type) (registration key) (device group path) [...]**

任意のキーに登録するデバイスの、指定されたデバイスグループでメンバーシップを追加します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、server および workstation です。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **registration-create-key (rck) [options] (device type) (registration key) [registration folder path]**

新しい登録キーを作成します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、server および workstation です。

次のオプションを受け入れます。

- f, --devicefolder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。登録デバイスはこのフォルダに置かれます。
- g, --devicegroup=[device group path][...] - デバイスグループのパスのカンマ区切りリスト。指定したパスは、指定したデバイスタイプのルートフォルダを基準にした相対パスである必要があります。登録デバイスはこれらのデバイスグループのメンバーになります。
- desc=[description] - 登録キーの説明。
- site=[site] - デバイスが存在するサイト。登録デバイスにはこのサイト情報が入力されます。
- dept=[department] - デバイスが使用される部署。登録デバイスにはこの部署情報が入力されます。
- loc=[location] - デバイスの物理的な場所。登録デバイスにはこの場所情報が入力されます。
- limit=[limit] - このキーを登録デバイスに使用できる回数。

#### **registration-delete (rd) [options](registration object path) [...]**

登録オブジェクトを削除します。

(registration object path) [...] - /Keys を基準にした、登録オブジェクト (登録キーまたはフォルダ) の相対パス。ワイルドカード\*は、引用符で囲まれている場合には、オブジェクト名に使用できます。オブジェクトを削除するのにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - 再帰的に、フォルダ内にオブジェクトを削除します。
- f, --folder=[registration folder] - /Keys を基準にした、登録フォルダの相対パス。このオプションを指定すると、登録オブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数の登録オブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **registration-folder-create (rfc) [options] (folder name) [parent folder]**

新しい登録フォルダを作成します。

次のオプションを受け入れます。

- desc=[description] - フォルダの説明。

#### **registration-info (ri) (registration key)**

登録キーについての詳細情報を表示します。

#### **registration-list (rl) [options] [folder]**

すべての登録オブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **registration-list-device-groups (rldg) (registration key)(rd)**

登録キーに関連付けられるデバイスグループを一覧表示します。

#### **registration-move (rmv) (registration object path) [destination folder path]**

登録オブジェクトを別の登録フォルダに移動します。

#### **registration-remove-device-groups (rrdg) [options] (device type) (registration key) (device group path) [...]**

デバイスグループと登録キーの関連付けを削除します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、server および workstation です。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にする相対パスとなります。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **registration-rename (rr) (registration object path) (new name)**

登録オブジェクトを名前変更します。

#### **registration-update-key (ruk) [options] (device type) (registration key)**

登録キーをアップデートします。

次のオプションを受け入れます。

- f, --devicefolder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。登録デバイスはこのフォルダに置かれます。
- desc=[description] - 登録キーの説明。
- site=[site] - デバイスが存在するサイト。登録デバイスにはこのサイト情報が入力されます。
- dept=[department] - デバイスが使用される部署。登録デバイスにはこの部署情報が入力されます。
- loc=[location] - デバイスの物理的な場所。登録デバイスにはこの場所情報が入力されます。
- limit=[limit] - デバイスを登録するためにこのキーを使用できる回数。
- unlimited - このキーはデバイスを登録するために無制限に使用できます。

## レポートコマンド

レポートで作業するのに使用するコマンドです。レポートコマンドは、長い形式では report- から始まり、短い形式では rp から始まります。

---

**注:** レポートコマンドは、カスタムレポートフォルダおよび事前定義されたレポートフォルダのレポートに対してのみ適用されます。レポートコマンドは、お気に入りフォルダのレポートには影響しません。

---



**report-add-user (rpau) (Username)**

ZENworks レポーティングサーバに新しいユーザアカウントを追加します。  
(Username) - ZENworks レポーティングサーバに追加するユーザの名前。

**report-copy (rpc) [options] (report name) (report folder) (report type)**

レポートをコピーします。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

次のオプションを受け入れます。

-n, --new-name=[new name] - コピーされたレポートの新しい名前。

-d, --destination-folder=[destination folder] - レポートのコピー先のフォルダ。このオプションが指定されていない場合、レポートのコピーが同じフォルダに作成されます。

**report-custom-folder-create (rpcfc) (Folder Name)**

custom-reports フォルダ内に新しいサブフォルダを作成します。サブフォルダ名またはフォルダのパスを指定しなかった場合に、custom-reports フォルダが存在しないときは、custom-reports フォルダだけが作成されます。

(Folder Name) - 作成するフォルダの名前、またはフォルダの完全なパス。

使用例 : customer-folders/a/b フォルダ内に c という名前の新しいサブフォルダを作成するには、zman rpcfc a/b/c と入力します。a または b フォルダのいずれかが存在しなかった場合には、指定されたパスに従って customer-folders にこれらのフォルダが作成されます。

**report-delete-definition (rpdd) (report name) (report folder) (report type)**

レポートタイプと場所が指定された場合のレポート定義を削除します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

**report-delete-definition-by-id (rpddbi) (report ID)**

レポート ID が指定される際レポート定義を削除します。

**report-delete-from-history (rpd fh) [options] (report name) (report folder) (report type)**

レポートタイプと場所を指定して、レポートインスタンスを履歴から削除します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

次のオプションを受け入れます。

-s, --start-time=[start time] - 指定した時間の後で生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

-e, --end-time=[end time] - 指定した時間の前に生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

### **report-delete-from-history-by-instance (rpdfhbi) (report instance ID)**

レポートインスタンス ID が指定される際レポートインスタンスを履歴から削除します。

### **report-deploy (rpd) (file path) (destination folder) [report type]**

レポートを ZENworks レポートティングサーバに展開します。

レポートは ZENworks レポートティングサーバ上にレポートファイルと同じ名前で作成されます。

(destination folder) - レポートの展開先フォルダ。

[report type] - レポートファイルが含まれるフォルダを指定した場合に、展開するレポートのタイプでフィルタします。たとえば、レポートファイルタイプとして WID を指定すると、そのフォルダ内にある Web Intelligence ドキュメントのみが展開されます。

### **report-folders-sync (rpfs)**

ZENworks レポートティングサーバのレポートフォルダを ZENworks と同期します。

### **report-generate-now (rpgn) [options] (report name) (report folder) (report type) (format type) (report destination)**

指定されたファイル形式でレポートを生成します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

(format type) - レポートをファイルにエクスポートする形式。WID レポートタイプで有効な値は、EXCEL、WEBI、または PDF です。

(report destination) - エクスポートされたレポートの宛先。有効な値は、BO、SMTP、および UNMANAGED\_DISK です。

次のオプションを受け入れます。

-s, --senderAddress=[sender email address] - レポートのメールの送信元の電子メールアドレス。レポートの宛先が SMTP の場合は、このオプションを指定する必要があります。

-f, --file=[file path] - レポートのエクスポート先ファイルのパス。レポートの宛先が UNMANAGED\_DISK の場合は、このオプションを指定する必要があります。

-u, --username=[username] - 共有場所にある場合の、宛先ファイルにアクセスするユーザ名。レポートの宛先が UNMANAGED\_DISK の場合は、このオプションを指定する必要があります。

-u, --password=[password] - 共有場所にある場合の、宛先ファイルにアクセスするパスワード。レポートの宛先が UNMANAGED\_DISK の場合は、このオプションを指定する必要があります。

### **report-instance-export (rpie) [options] (report name) (report folder) (report type) (destination folder) (export format)**

レポートのインスタンスを指定した形式でエクスポートします。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

(destination folder) - エクスポートされたレポートインスタンスファイルを保存するフォルダのパス。エクスポートするファイルの名前は、*report name\_report instance id.file type* という形式になります。

(export format) - レポートをエクスポートする形式。有効な値は、HTML です。

次のオプションを受け入れます。

-s, --start-time=[start time] - 指定した時間の後で生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

-e, --end-time=[end time] - 指定した時間の後で生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

-i, --instance-id=[report instance ID][...] - エクスポートされるレポートインスタンスの ID を表示します。このオプションが指定されていない場合、レポートのすべてのインスタンスがエクスポートされます。--start-time オプションまたは --end-time オプションを指定した場合、指定した間隔に生成されたレポートインスタンスがエクスポートされます。

#### **report-list (rpl) [options] (report type)**

レポートを一覧表示します。

(report type) - レポートのタイプ。

次のオプションを受け入れます。

-r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

-n, --namefilter=[report name] - レポートの名前。

-f, --folder=[folder] - 指定したフォルダのコンテンツを一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合、ルートフォルダの内容が一覧表示されます。

#### **report-list-history (rplh) [options] (report name) (report folder) (report type)**

履歴からレポートインスタンスを一覧表示します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

次のオプションを受け入れます。

-s, --start-time=[start time] - 指定した時間の後で生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

-e, --end-time=[end time] - 指定した時間の後で生成されたレポートインスタンスをフィルタします。時間は、二重引用符で囲んだ YYYY-MM-DD HH:MM 形式で指定します。

#### **report-load (rpld) {source folder}**

指定したフォルダから、すべてのレポート、レポートイング権、および所有権の詳細を、ローカルの ZENworks レポートイングサーバ上の Custom Reports フォルダにロードします。

(source folder) - すべてのレポートとレポートイング権のアップロード元フォルダの場所。デフォルトでは、これは現在のフォルダです。

**report-move (rpmv) (report name) (report folder) (report type) (destination folder)**

レポートを異なるフォルダに移動します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

(destination folder) - レポートの移動先フォルダ。

**report-save (rpsv) (destination folder)**

レポート、レポート権、所有権の詳細をローカルの ZENworks レポーティングサーバから指定されたフォルダに保存します。レポーティング権は、指定したフォルダ内の rights.xml ファイルに保存されます。ZENworks レポーティングサーバ InfoView で作成された、フォルダやレポートなどのオブジェクトの所有権詳細は、指定されたフォルダ内の ownership.xml ファイルに保存されます。

rights.xml ファイルは、管理ゾーンに管理者が存在する場合にのみ作成されます。ownership.xml ファイルは、ZENworks レポーティングサーバ InfoView に管理者が作成したオブジェクトが存在する場合にのみ作成されます。

(destination folder) - レポートとレポーティング権を保存するフォルダの場所。デフォルトでは、レポートとレポーティング権は、現在のフォルダに保存されます。

---

**重要 :** Report-save コマンド (rpsv) は、Custom Reports フォルダ内のレポートだけを保存します。Favorites フォルダ内のレポートを保存するには、レポートを Custom Reports フォルダにコピーして、rpsv コマンドを実行します。

---

**report-schedule (rps) (report name) (report folder) (report type) (report destination)**

今すぐ実行するレポートをスケジュール設定します。

(report folder) - レポートを含むフォルダのパス。

(report type) - レポートのタイプ。

(report destination) - スケジュールされたレポートの宛先。有効な値は、INBOX および BO です。

**report-view (rpv) (report ID) (-s|--schedule) (-q|--sql)**

レポートのスケジュールと SQL クエリを表示します。

(-s|--schedule) - レポートのスケジュールを一覧表示します。

(-q|--sql) - レポートの SQL クエリを一覧表示します。

**report-view-settings (rpvs) (-e|--email)**

レポート設定を表示します。これにはレポートの電子メール通知情報も含まれます。

(-e|--email) - レポートの電子メール通知情報。

## 役割コマンド

これらのコマンドは、管理者アカウントを権限ベースで管理するための役割を作成および管理する場合に使用します。役割コマンドは、長い形式では role- から始まり、短い形式では ro から始まります。

**role-add-admins (rlaa) [options] [role name] [ZENworks administrator name] [...] [rights category] [object path] [...]**

役割を1つ以上のZENworks管理者に割り当て、役割の中の権限カテゴリを異なるオブジェクトコンテキストに関連付けます。

[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、`zman role-rights-add-admins --Help | more` を実行します。

[object path] [...] - スラッシュ (/) から始まるZENworksオブジェクトのフルパス。そのオブジェクトに対して、権限カテゴリにグループ化された権限が強制的に適用されます。権限カテゴリに関連付けることができるオブジェクトタイプのルートフォルダを表示するには、`zman role-add-admins --Help | more` を実行します。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[folder name] - フォルダのフルパス。このオプションを指定すると、オブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のオブジェクトを指定する場合に役立ちます。

-H, --Help - 利用可能な権限のカテゴリ、および権限を強制的に適用するオブジェクトタイプのルートフォルダを表示します。

**role-create (rlc) (role name)**

ZENworks 管理者の役割を作成します。

**role-delete (rld) (role name) [...]**

ZENworks 管理者の役割の名前を変更します。

(role name) [...] - 役割の名前。引用符で囲まれている限り、ワイルドカード \* を使用できます。ワイルドカードを使用してオブジェクトを削除する場合には、注意してください。

**role-list (rll) [options]**

ZENworks 管理者の役割すべてを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を引用符で囲まれている限りは使用できません。

-N, --name-only - 役割名だけを表示します。

-T, --name-and-type - 役割名と特権タイプだけを表示します。

-l, --longnames - 権限の名前を表示します。デフォルトでは、権限名は省略形式で表示されます。

**role-list-admins (rlla) [role name]**

指定した役割を持つZENworks管理者と、その役割の権限カテゴリに関連付けられたコンテキストを一覧表示します。

**role-remove-admins (rlra) [options] (role name) (ZENworks administrator name) [...] [rights category] [object path] [...]**

1人以上のZENworks管理者から役割割り当てを削除します。または、権限のカテゴリとオブジェクトコンテキストの関連付けを削除します。

[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、`zman role-rights-add-admins --Help | more` を実行します。

[object path] [...] - スラッシュ (/) から始まる ZENworks オブジェクトのフルパス。そのオブジェクトに対して、権限カテゴリにグループ化された権限が強制的に適用されません。権限カテゴリに関連付けることができるオブジェクトタイプのルートフォルダを表示するには、`zman role-add-admins --Help | more` を実行します。

次のオプションを受け入れます。

`-f, --folder=[folder name]` - フォルダのフルパス。このオプションを指定すると、オブジェクトのパスは、このフォルダを基準にした相対パスとして決定されます。これは、同じフォルダで複数のオブジェクトを指定する場合に役立ちます。

#### **role-rename (rlr) (role name) (new name)**

ZENworks 管理者の役割の名前を変更します。

#### **role-rights-delete (rlrd) (role name) [rights category]**

ZENworks 管理者の役割に割り当てられている権限を削除します。

[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、`zman role-rights-set --Help | more` を実行します。

#### **role-rights-info (rlri) [options] (role name)**

ZENworks 管理者の役割に割り当てられている権限を表示します。

次のオプションを受け入れます。

`-c, --category=[rights category]` - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、`zman role-rights-set --Help | more` を実行します。

`-l, --longnames` - 権限の名前を表示します。デフォルトでは、権限名は省略形式で表示されます。

#### **role-rights-set (rlrs) [options] [role name] [rights category]**

ZENworks 管理者の役割の権限を許可または却下します。

[rights category] - 権限がグループ化されているカテゴリの名前。カテゴリのリストを確認するには、`zman role-rights-set --Help | more` を実行します。

次のオプションを受け入れます。

`-a, --allow=[right ][...]` - 許可されている権限の長い名前または短い名前のカンマ区切りリスト。各カテゴリの権限を表示するには、`zman role-rights-modify --Help | more` を実行します。

`-A, --allow-all` - 権限カテゴリのすべての権限を許可します。

`-d, --deny=[right ][...]` - 拒否する権限の長い名前または短い名前のカンマ区切りリスト。各カテゴリの権限を表示するには、`zman role-rights-modify --Help | more` を実行します。

`-D, --deny-all` - 権限カテゴリのすべての権限を拒否します。

`-u, --unset=[right ][...]` - 設定解除する権限の長い名前または短い名前のカンマ区切りリスト。各カテゴリの権限を表示するには、`zman role-rights-modify --Help | more` を実行します。

`-H, --Help` - 使用可能な権限カテゴリに関する詳しいヘルプおよび各カテゴリ内の権限名の長い形式と短い形式を表示します。カテゴリ名を指定した場合、そのカテゴリの権限に関するヘルプが提供されます。

## ルールセットコマンド

登録ルールセットの作成および変更を行うコマンドです。ルールセットは、登録キーを持たない ZENworks サーバに新しいデバイスを登録するのに、適用されます。これらのコマンドでは、デバイスタイプを指定する必要があります。その上で、デバイスフォルダのタイプと、ルールセットが関連付けられるデバイスグループを決定するため、登録デバイスのタイプも決定します。ルールセットコマンドは、長い形式では `ruleset-` から始まり、短い形式では `rs` から始まります。

次のコマンドはすべて、「[グローバルオプション](#)」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### **ruleset-add-device-groups (rsadg) [options] (device type) (name or position) (device group path) [...]**

指定したルールセットを使用して、インポートしたデバイスに対して指定されているデバイスグループにメンバーシップを追加します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、`server` および `workstation` です。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にする相対パスとなります。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

### **ruleset-add-rule (rsar) (name or position) (rules file)**

ルールをルールセットに追加します。

(rules file) - 追加するルールを含むファイルの相対パス。各ルールでは、ルールセットをデバイスに適用するために満たす必要がある条件を定義します。ルールセット内の各ルールは、ルールセットが適用されるために `TRUE` に評価される必要があります。ルールは、次のフォーマットで表現されます。

NOT 属性の演算子値。

NOT は、ルール否定に使用され、オプションです。属性の前で指定する必要があります。

attribute - 有効な属性は、`GUID`、`DeviceType`、`OS`、`HostName`、`IPAddress`、`CPU`、`DNS`、および `Language` です。

operator - 有効な演算子は、`Contains`、`StartsWith`、`EndsWith`、および `Equals` です。

value - 値のフォーマットとコンテンツは、属性によって決定されます。例については、Linux サーバでは `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/rulesets`、Windows サーバでは `Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\ rulesets` にある `addrulestoruleset.txt` ファイルを参照してください。

### **ruleset-create (rsc) [options] (device type) (rule set name) (rules file) [position]**

登録キーを持たないデバイスを登録する場合に、適用する新しいルールセットを作成します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、`server` および `workstation` です。

(rules file) - 追加するルールを含むファイルの相対パス。ファイルのコンテンツのフォーマットの詳細は、`ruleset-add-rule` コマンドを参照してください。

次のオプションを受け入れます。

- f, --devicefolder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。登録デバイスはこのフォルダに置かれます。
- g, --devicegroup=[device group path][...] - デバイスグループのパスのカンマ区切りリスト。指定したパスは、指定したデバイスタイプのルートフォルダを基準にした相対パスである必要があります。登録デバイスは、これらのデバイスグループのメンバーになります。
- desc=[description] - ルールセットの説明。
- site=[site] - デバイスが存在するサイト。登録デバイスにはこのサイト情報が入力されます。
- dept=[department] - デバイスが使用される部署。登録デバイスにはこの部署情報が入力されます。
- loc=[location] - デバイスの物理的な場所。登録デバイスにはこの場所情報が入力されます。

**ruleset-delete (rsd) (name or position)**

ルールセットを削除します。

**ruleset-info (rsi) (name or position)**

ルールセットに関する詳細情報を表示します。

**ruleset-list (rsl)**

ルールセットすべてを一覧表示します。

**ruleset-list-device-groups (rsl dg) (name or position)**

ルールセットに関連付けられるデバイスグループを一覧表示します。

**ruleset-move (rsmv) (name or position) (new position)**

ルールセットの位置を変更します。

**ruleset-remove-device-groups (rsrdg) [options] (device type) (name or position) (device group path) [...]**

デバイスグループとルールセットの関連付けを削除します。

(device type) - 登録デバイスのタイプ。有効な値は、server および workstation です。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、デバイスオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にする相対パスとなります。これは、同じフォルダで複数のデバイスオブジェクトを指定するのに使用できます。

**ruleset-remove-rule (rsrr) (name or position) (rule position)**

ルールセットからルールを削除します。

**ruleset-rename (rsr) (name or position) (new name)**

ルールセットの名前を変更します。

**ruleset-update (rsu) [options] (device type) (name or position)**

ルールセットをアップデートします。

次のオプションを受け入れます。



- f, --devicefolder=[device folder] - 指定されたデバイスタイプのルートフォルダを基準にした、デバイスフォルダの相対パス。登録デバイスはこのフォルダに置かれます。
- desc=[description] - ルールセットの説明。
- site=[site] - デバイスが存在するサイト。登録デバイスにはこのサイト情報が入力されます。
- dept=[department] - デバイスが使用される部署。登録デバイスにはこの部署情報が入力されます。
- loc=[location] - デバイスの物理的な場所。登録デバイスにはこの場所情報が入力されます。

## サテライトコマンド

これらのコマンドは、サテライトを表示、作成、および削除する場合に使用します。サテライトで使用できる役割には、コレクションとコンテンツの2つがあります。サテライトコマンドは、長い形式では `satellite-server-` から始まり、短い形式では `ss` から始まります。

### **satellite-server-add-imagingrole (ssaimg) (Managed device) [-p|--proxydhcp=ProxyDHCP Service]**

管理対象デバイスを、イメージングサーバの役割を持つサテライトに昇格します。管理デバイスがすでにサテライトとして機能している場合、このコマンドは、イメージングサーバの役割を追加します。

(Managed device) - /デバイス/ワークステーションを基準にした、管理対象デバイスの相対パス。

-p, --proxydhcp=<ProxyDHCP Service> - プロキシ DHCP サービスを開始または停止します。有効な値は、start および stop です。

### **satellite-server-create (ssc) (Managed device) ((role),(role),...(role)) [Parent Primary Server] [Satellite Server Port] [--force-port-change] [--force-parent-change]**

サテライトの役割を設定できます。

次のオプションを受け入れます。

(Managed device) - サテライトとして作成する管理対象デバイスの完全な名前。

(role) - 管理対象デバイスに追加するサテライトの役割。

[Parent Primary] - サテライトサーバがコレクションデータをロールアップする先、またはコンテンツの取得元のプライマリサーバの完全な名前。管理対象デバイスがすでにサテライトの場合、このフィールドはオプションです。

[Satellite Server Port] - サテライトサーバが、コレクションロールアップ要求をリスンするため、または親プライマリサーバからコンテンツを取得するために使用するポート。指定しない場合は、ポート 80 が使用されます。

[--force-port-change] - 管理デバイスがすでにサテライトとして機能している場合、このオプションを指定すると、このデバイス上のすべてのサテライトコンポーネントが要求をリスンする、またはコンテンツ取得のために使用するポートを変更することができます。

[--force-parent-change] - 管理デバイスがすでにサテライトとして機能している場合、このオプションを指定すると、デバイス上のすべてのサテライトコンポーネントのプライマリサーバの親を変更することができます。

### **satellite-server-delete (ssd) (Managed device) [(role),(role),...(role)]**

デバイスからサテライトの役割を削除します。

次のオプションを受け入れます。

(Managed device) - サテライトの役割を削除する管理対象デバイスの完全な名前。  
[role] - デバイスから削除するサテライトの役割。役割を指定しない場合には、デバイスからすべてのサテライトの役割が削除されます。

#### **satellite-server-edit-imagingrole (sseimg) (Managed device) (Action on ProxyDHCP Service)**

イメージングサテライトのプロキシ DHCP サービスを開始または停止します。

(Managed device) - /デバイス/ワークステーションを基準にした、管理対象デバイスの相対パス。指定するデバイスは、イメージングの役割を持つサテライトデバイスである必要があります。

(Action on ProxyDHCP Service) - プロキシ DHCP サービスを開始または停止します。  
有効な値は、start および stop です。

#### **satellite-server-list-imagingservers (sslimg)**

イメージングの役割を持つサテライトを一覧表示します。

#### **satellite-server-list-roles (sslr) [Managed device]**

以前に定義されたサテライトの役割を一覧表示します  
次のオプションを受け入れます。

[Managed device] - サテライトの役割を一覧表示する管理対象デバイスの完全な名前。  
指定しない場合には、使用可能なすべてのサテライトの役割が表示されます。

#### **Satellite-server-list-servers (ssls)**

サテライトと役割を一覧表示します。

#### **satellite-server-remove-imagingrole (ssrimg) (Managed device) [-r|--removeImageFiles]**

管理対象デバイスから、サテライトのイメージングサーバの役割を削除します。

(Managed device) - /デバイス/ワークステーションを基準にした、管理対象デバイスの相対パス。指定するデバイスは、イメージングの役割を持つサテライトデバイスである必要があります。

-r, --removeImageFiles - 指定したデバイスからイメージファイルを削除します。

## **サーバコマンド**

サーバを管理するコマンドです。サーバコマンドは、長い形式では server- から始まり、短い形式では s から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

#### **server-add-bundle (sab) [options] (server object path) (bundle or bundle group) [...]**

バンドルをサーバオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。
- I, --icon-location=[application location XML file] - バンドルアプリケーション用のアイコンを配置する場所を含む XML ファイル。XML ファイル形式については、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは `Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles` にある `IconLocation.xml` を参照してください。
- d, --distribution-schedule=[distribution schedule XML file] - 配布スケジュールを含む XML ファイル。
- l, --launch-schedule=[launch schedule XML file] - 起動スケジュールを含む XML ファイル。
- a, --availability-schedule=[availability schedule XML file] - アベイラビリティスケジュールを含む XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules、Windows サーバでは `Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\schedules` にある XML ファイルを参照してください。
- i, --install-immediately - 配布後ただちにバンドルをインストールします。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- L, --launch-immediately - インストール後ただちにバンドルを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- n, --distribute-now - バンドルをただちに配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule および --distribute-on-device-refresh オプションは無視されます。--distribute-now、--distribute-on-device-refresh、および --distribution-schedule オプションは配布スケジュールの設定に使用し、同時に使用することはできません。最初に --distribute-now オプションが考慮され、次に --distribute-on-device-refresh オプションが考慮され、最後に --distribution-schedule が考慮されます。
- r, --distribute-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule オプションは無視されます。
- s, --launch-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを起動するよう起動スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--launch-schedule オプションは無視されます。
- w, --wakeup-device-on-distribution - バンドルの配布中にデバイスがシャットダウンした場合、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- B, --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。

- S, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。
- C, --retries=[Number of retries] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。
- T, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

**server-add-policy (sap) [options] (server object path) (policy or policy group) [...]**

ポリシーをサーバオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

- c, --conflicts=[policy conflict resolution order] - ポリシー競合の解決方法を決定します。有効な値は、userlast または 1、devicelast または 2、deviceonly または 3、useronly または 4 です。userlast の場合、デバイスに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからユーザに関連付けられたポリシーが適用されます。devicelast の場合、ユーザに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからデバイスに関連付けられたポリシーが適用されます。deviceonly の場合、ユーザに関連付けられたポリシーは無視されます。useronly の場合、デバイスに関連付けられたポリシーは無視されます。このオプションを指定しなかった場合には、userlast がデフォルト値として使用されます。
- e, --enforce-now - 割り当てられているすべてのデバイスに対してポリシーをただちに強制的に適用します。
- f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**server-delete (sd) [options] (server object path) [...]**

1 つまたは複数のサーバオブジェクトを削除します。

(server object path) [...] - /デバイス/サーバを基準にした、サーバオブジェクト (サーバ、サーバフォルダ、またはサーバグループ) の相対パス。引用符で囲まれている限り、ワイルドカード \* を使用できます。オブジェクトを削除するのにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - 再帰的に、フォルダ内にオブジェクトを削除します。
- f, --folder=[server folder] - /デバイス/サーバを基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。

**server-folder-create (sfc) [options] [folder name] [parent folder]**

サーバを格納するための新しいフォルダを作成します。

次のオプションを受け入れます。

**--desc=[description]** - フォルダの説明。

#### **server-group-add (sga) [options] (server group path) [server path] [...]**

サーバをサーバグループに追加します。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[server folder]** - /デバイス/Severs を基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **server-group-create (sgc) [options] [group name] [parent folder]**

サーバグループを作成して、メンバーを追加します。

次のオプションを受け入れます。

**--desc=[description]** - グループの説明。

**-m, --members=[server path][...]** - /デバイス/サーバを基準にした、サーバの相対パス。

**-f, --folder=[server folder]** - /デバイス/サーバを基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **server-group-members (sgm) [options] (server group path)**

サーバグループまたは動的サーバグループのメンバーを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

**-s, --scrollsize=[scrollsize]** - 一度に表示される結果の数。

#### **server-group-remove (sgr) [options] (server group path) [server path] [...]**

サーバをサーバグループから削除します。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[server folder]** - /デバイス/Severs を基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **server-info (si) (server path)**

サーバに関する詳細情報が一覧表示されます。

#### **server-list (sl) [options] [folder]**

サーバオブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

**-r, --recursive** - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

**-n, --namefilter=[filter string]** - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。

- t, --typefilter=[type filter][...] - 指定したオブジェクトタイプのカンマ区切りリストに一致する結果が表示されます。有効な値は、device、group、および folder です。
- c, --count - 結果の数が表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。
- f, --flagfilter=[flag filter][...] - 指定したフラグのカンマ区切りリストに一致する結果が表示されます。有効な値は、retired および notretired です。

#### **server-list-bundles (slb) [options] (server object path)**

サーバオブジェクトに割り当てられたバンドルを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

- a, --all - 有効および無効のバンドル両方を一覧表示します。
- e, --effective - 有効なバンドルのみ一覧表示します。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **server-list-groups (slg) [options] (server path)**

特定のサーバがメンバーであるグループを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **server-list-policies (slp) [options] (server object path)**

サーバオブジェクトに割り当てられたポリシーを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

- a, --all - 有効および無効のポリシー両方を一覧表示します。
- e, --effective - 有効なポリシーのみ一覧表示します。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **server-move (smv) (server object path) [destination folder path]**

サーバオブジェクトを別のフォルダに移動します。

#### **server-refresh (srf) [options] (server object path) [...]**

サーバ内の ZENworks Adaptive Agent を更新します。  
次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[server folder] - /デバイス /Servers を基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションが指定される場合は、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **server-remove-bundle (srb) [options] (server object path) (bundle or bundle group) [...]**

サーバオブジェクトに割り当てられたバンドルを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

**server-remove-policy (srp) [options] (server object path) (policy or policy group) [...]**

サーバオブジェクトに割り当てられたポリシーを削除します。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[policy folder]** - / ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用するのに便利です。

**server-rename (sr) (server object path) (new name)**

サーバオブジェクトを名前変更します。

**server-reorder-bundles (srob) (server object path) (current position) (new position)**

サーバに割り当てられたバンドルの順序を変更します。server-list-bundles コマンドを使用して、割り当てられたバンドルの順序を取得します。

**server-reorder-policies (srop) (server object path) (current position) (new position)**

サーバに割り当てられたポリシーの順序を変更します。server-list-policies コマンドを使用して、割り当てられたポリシーの順序を取得します。

**server-retire (sret) (server object path)**

次の更新時に、ZENworks システムから、選択したサーバをリタイアさせます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます ( 反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます)。そのため、インベントリ情報はすべて保持されたままでアクセス可能ですが、ポリシーおよびバンドルの割り当てはすべて削除されます。後でデバイスを再度アクティブ化する場合、割り当ては復元されます。

次のオプションを受け入れます。

**-i, --immediate** - デバイスをただちにリタイアさせるために、強制的にデバイスを更新します。

**server-statistics (sst) (server path)**

ZENworks サーバ使用の統計が表示されます。

**server-unretire (suret) (server object path)**

選択したサーバを次の更新時に再び有効にして、デバイスが以前に所有していたポリシーおよびバンドルの割り当てをすべて再び適用します。

次のオプションを受け入れます。

**-i, --immediate** - デバイスのリタイアをただちに解除するために、強制的にデバイスを更新します。

**server-view-all-policies-status (svaps) [options] (server path)**

サーバに割り当てられたポリシーの詳細な展開ステータスを表示します。

次のオプションを受け入れます。

**--statusfilter=[status type][...]** - ポリシー適用イベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。

**-s, --scrollsize=[scrollsize]** - 一度に表示される結果の数。

### **server-wakeup (sw) [options] (server object path) [...]**

Wake-On-LAN を使用してサーバを起動します。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[server folder] - /デバイス /Servers を基準にした、サーバフォルダの相対パス。このオプションが指定される場合は、サーバオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のサーバオブジェクトを指定するのに使用できます。
- b --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。
- s, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。
- r, --retries=[Number of retries] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。
- t, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

## 設定コマンド

設定の設定と変更を使用するコマンドです。設定コマンドは、長い形式では settings- から始まり、短い形式では s から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### **settings-copy (scp) [options] (source device or device folder path) (destination device or device folder path) [...]**

設定をコピーします。

(source device or device folder path) - /デバイスを基準にした、設定のコピー元デバイスまたはデバイスフォルダの相対パス。

(destination device or device folder path) [...] - /デバイスを基準にした、設定のコピー先デバイスまたはデバイスフォルダの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

- n, --names=[settings name][...] - ソースパスからコピーされる設定の名前。指定しなかった場合、ソースパスで定義されたすべての設定がコピーされます。

### **settings-export-to-file (seff) [options] (XML file path) [settings name] [...]**

設定データ (XML 形式) をファイルにエクスポートします。設定の作成および変更用の入力として XML ファイルが使用されます。



(XML file path) - 設定データが XML 形式で保存されるファイル。ファイルが存在しない場合、新しいファイルが作成されます。

[settings name] [...] - エクスポートする設定の名前。指定しなかった場合、すべての設定がエクスポートされます。

次のオプションを受け入れます。

-s, --source=[source device or device folder path] - /デバイスを基準にした、設定のエクスポート元デバイスまたはデバイスフォルダの相対パス。指定しなかった場合、設定はゾーンからエクスポートされます。

-e, --effective - 指定した場合は有効な設定が取得されます。そうでない場合はソースパスで定義 / 上書きされた設定のみが取得されます。

#### **settings-revert (srt) (source device or device folder path) (settings name) [...]**

親フォルダへの設定を取り消します。

(source device or device folder path) - /デバイスを基準にした、設定を取り消す必要があるデバイスまたはデバイスフォルダの相対パス。

#### **settings-set (ss) (XML file path) [destination device or device folder path] [...]**

さまざまなレベルで設定を行います。

(XML file path) - エクスポートされた設定情報が含まれる XML ファイル。settings-export-to-file (setf) を使用して XML ファイルに設定情報をエクスポートします。次のオプションを受け入れます。

[settings name] [...] - エクスポートする設定の名前。指定しなかった場合、すべての設定がエクスポートされます。

-s, --source=[source device or device folder path] - /デバイスを基準にした、設定が必要なデバイスまたはデバイスフォルダの相対パス。指定しなかった場合、設定はゾーンレベルで設定されます。

## **システムアップデート / 製品認識アップデートコマンド**

これらのコマンドは、ZENworks のシステムアップデートおよび製品認識アップデート (PRU) を管理する場合に使用します。システムアップデートコマンドは、長い形式では system-update から始まり、短い形式では su から始まります。

#### **system-update-assign (sua) (system update name) [device path] [...] [options]**

認定済みシステムアップデートをデバイスに割り当てます。

(system update name) - システムアップデート名または UID。

[device path] [...] - /デバイスを基準にした、デバイスの相対パス。

次のオプションを受け入れます。

-a, --all - すべてのデバイスに割り当てます。

#### **system-update-authorize (suaz) (system update or PRU name)**

アップデートまたは PRU を認定します。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

**system-update-baseline (sub) (system update name)**

指定したアップデートをベースランアップデートとして設定する試行をスケジュールします。

(system update name) - システムアップデート名または UID。

**system-update-cancel-download (sucd) (system update or PRU name)**

システムアップデートまたは PRU のダウンロードをキャンセルします。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

**system-update-delete-update (sudu) (system update or PRU name) [option]**

指定したシステムアップデートまたは PRU をゾーンから削除します。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

次のオプションを受け入れます。

-f, --force - アップデートを強制的に削除します。これは注意して使用してください。  
また、アップデートがアクティブな状態にないことを確認した場合にのみ、使用してください。

**system-update-download (sud) (system update or PRU name)**

最新のシステムアップデートまたは PRU をダウンロードします。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

**system-update-import (sui) (path to update) [system update or PRU name]**

システムアップデートまたは PRU を、ZIP ファイルまたはディレクトリからゾーンにインポートします。アップデートまたは PRU が ZENworks システムに入った後は、オンラインアップデートや PRU と同じ方法で管理することができます。

(path to update) - アップデートまたは PRU の ZIP ファイルまたはディレクトリへのフルパス。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

**system-update-list-assign (sula) (device path) [option]**

指定したデバイスまたはグループに割り当てられたすべてのアップデートを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

**system-update-rebuild-packages (surp) (system update name)**

指定された更新コンテンツを使用して、このサーバに展開パッケージを再構築します。

(system update name) - システムアップデート名または UID。

**system-update-status (sus) (system update or PRU name)**

指定したシステムアップデートまたは PRU のステータスを表示します。

(system update or PRU name) - システムアップデートまたは PRU の名前か UID。

**system-update-view-available (suva) [options]**

アップデートサーバ上、またはアップデートファイル内で公開された、利用可能なすべてのアップデートまたは PRU のリストを表示します。

次のオプションを受け入れます。

- i, --importFile=[path to import file/directory] - クエリするインポートファイルのフルパス。
- u, --url=[url to update server] - クエリするシステムアップデートサーバの URL で、  
http://servername:[port]/path という形式。
- f, --product=[product code] - アップデートをチェックする製品コード (たとえば zcm、  
pru)。
- v, --version=[product base version] - アップデートをチェックする製品のベースバージョン (たとえば、10.0、10.1)。

## ユーザコマンド

ZENworks で設定されるユーザソースに属するユーザを管理するコマンドです。ユーザソースは、e-Directory や Active Directory など、既存の LDAP の信頼されたソースから設定されます。ユーザコマンドは、長い形式では user- から始まり、短い形式では u から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

### **user-add-bundle (uab) [options] (user object path) (bundle or bundle group) [...]**

バンドルをユーザオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。
- I, --icon-location=[application location XML file] - バンドルアプリケーション用のアイコンを配置する場所を含む XML ファイル。XML ファイル形式については、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles にある IconLocation.xml を参照してください。
- d, --distribution-schedule=[distribution schedule XML file] - 配布スケジュールを含む XML ファイル。
- l, --launch-schedule=[launch schedule XML file] - 起動スケジュールを含む XML ファイル。
- a, --availability-schedule=[availability schedule XML file] - アベイラビリティスケジュールを含む XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\schedules にある XML ファイルを参照してください。
- i, --install-immediately - 配布後ただちにバンドルをインストールします。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule、--distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。

- L, --launch-immediately - インストール後ただちにバンドルを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule, --distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- n, --distribute-now - バンドルをただちに配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule および --distribute-on-device-refresh オプションは無視されます。--distribute-now、--distribute-on-device-refresh、および --distribution-schedule オプションは配布スケジュールの設定に使用し、同時に使用することはできません。最初に --distribute-now オプションが考慮され、次に --distribute-on-device-refresh オプションが考慮され、最後に --distribution-schedule が考慮されます。
- r, --distribute-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule オプションは無視されます。
- s, --launch-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを起動するよう起動スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--launch-schedule オプションは無視されます。

**user-add-policy (uap) [options] (user object path) (policy or policy group) [...]**

ポリシーをユーザオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

- e, --enforce-now - 割り当てられているすべてのデバイスに対してポリシーをただちに強制的に適用します。
- f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**user-container-create (ucc) (user source) (user container) (display name)**

ZENworks で設定されたユーザソースにユーザコンテナを追加します。

(user container) - LDAP ソースのルートコンテキストに対して相対的な RDN( 相対式別名 ) 形式で追加されるユーザコンテナ。

(display name) - ユーザコンテナの名前を表示します。

**user-group-add (uga) [options] (ZENworks user group path) (user path) [...]**

ZENworks ユーザグループにユーザを追加します。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[user folder] - /ユーザを基準にした、ユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ユーザオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にして決定されます。これは、同じフォルダで複数のユーザオブジェクトを指定するのに使用できます。

**user-group-create (ugc) [options] (group name)**

ZENworks ユーザグループを作成して、メンバーを追加します。

次のオプションを受け入れます。

- desc=[description] - グループの説明。

-m, --members=[user path][...] - /ユーザを基準にした、ユーザの相対パス。  
-f, --folder=[user folder] - /ユーザを基準にした、ユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ユーザオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にして決定されます。これは、同じフォルダで複数のユーザオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **user-group-delete (ugd) (ZENworks user group path) [...]**

1 つ以上の ZENworks ユーザグループを削除します。

(ZENworks user group path) [...] - /ユーザを基準にした、ZENworks ユーザグループのパス。

#### **user-group-members (ugm) [options] (user group path)**

ZENworks ユーザグループまたは LDAP ディレクトリユーザグループのメンバーを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

#### **user-group-remove (ugr) [options] (ZENworks user group path) (user path) [...]**

ZENworks ユーザグループからユーザを削除します。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[user folder] - /ユーザを基準にした、ユーザフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ユーザオブジェクトのパスは、このフォルダを基準にして決定されます。これは、同じフォルダで複数のユーザオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **user-info (ui) (user path)**

ユーザに関する詳細情報が一覧表示されます。

#### **user-list (ul) [options] [folder]**

ユーザオブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。

-n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード \* および ? を使用できます。

-t, --typefilter=[type filter][...] - 指定したオブジェクトタイプのカンマ区切りリストに一致する結果が表示されます。有効な値は、user、group、および folder です。

-c, --count - 結果の数が表示されます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **user-list-bundles (ulb) [options] (user object path)**

ユーザオブジェクトに割り当てられたバンドルを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

-a, --all - 有効および無効のバンドル両方を一覧表示します。

-e, --effective - 有効なバンドルのみ一覧表示します。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**user-list-groups (ulg) [options] (user path)**

特定のユーザがメンバーであるグループを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

**user-list-policies (ulp) [options] (user object path)**

ユーザオブジェクトに割り当てられたポリシーを一覧表示します。

-a, --all - 有効および無効のポリシー両方を一覧表示します。

-e, --effective - 有効なポリシーのみ一覧表示します。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**user-logged-in-devices (ulid) (user path)**

ユーザがログインしているデバイスを表示します。

**user-primary-workstation (upws) (user path)**

ユーザのプライマリワークステーション、ログイン数、プライマリワークステーションにユーザがログインしていた時間(分)を一覧にします。

**user-remove-bundle (urb) [options] (user object path) (bundle or bundle group) [...]**

ユーザオブジェクトに割り当てられたバンドルを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

**user-remove-policy (urp) [options] (user object path) (policy or policy group) [...]**

ユーザオブジェクトに割り当てられたポリシーを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**user-reorder-bundles (urob) (user object path) (current position) (new position)**

ユーザに割り当てられたバンドルの順序を変更します。

**user-reorder-policies (urop) (user object path) (current position) (new position)**

ユーザに割り当てられたポリシーの順序を変更します。

**user-source-create (usc) [options] (user source XML file path)**

ユーザソースを設定します。

次のオプションを受け入れます。

**-a, --accept-certificate** - SSL モードを選択した場合に、ユーザソースが提示する証明書を受け入れます。このオプションは、スクリプトの場合にインタラクティブモードにならないようにするために設けられています。証明書を表示してから承認することをお勧めします。

#### **user-view-all-bundles-status (uvabs) [options] (user path)**

ユーザに割り当てられたバンドルの詳細な展開ステータスを表示します。

次のオプションを受け入れます。

**--statusfilter=[status type][...]** - バンドル配布およびインストールイベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。

**-s, --scrollsize=[scrollsize]** - 一度に表示される結果の数。

#### **user-view-all-policies-status (uvaps) [options] (user path)**

ユーザに割り当てられたポリシーの詳細な展開ステータスを表示します。

次のオプションを受け入れます。

**--statusfilter=[status type][...]** - ポリシー適用イベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。

**-s, --scrollsize=[scrollsize]** - 一度に表示される結果の数。

## ワークステーションコマンド

ワークステーションを管理するコマンドです。ワークステーションコマンドは、長い形式では workstation- から始まり、短い形式では w から始まります。

次のコマンドはすべて、「**グローバルオプション**」のセクションで一覧表示されるオプションフラグを受け入れます。さらに、個別のオプションは、各コマンドでリストされたとおりに受諾されます。

#### **workstation-add-bundle (wab) [options] (workstation object path) (bundle or bundle group) [...]**

バンドルをワークステーションオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

**-f, --folder=[bundle folder]** - / バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

**-I, --icon-location=[application location XML file]** - バンドルアプリケーション用のアイコンを配置する場所を含む XML ファイル。XML ファイル形式については、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles にある IconLocation.xml を参照してください。

**-d, --distribution-schedule=[distribution schedule XML file]** - 配布スケジュールを含む XML ファイル。

**-l, --launch-schedule=[launch schedule XML file]** - 起動スケジュールを含む XML ファイル。

- a, --availability-schedule=[availability schedule XML file] - アベイラビリティスケジュールを含む XML ファイル。スケジュール XML ファイルテンプレートについては、Linux サーバでは /opt/novell/zenworks/share/zman/samples/schedules、Windows サーバでは *Installation\_directory*:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\schedules にある XML ファイルを参照してください。
- i, --install-immediately - 配布後ただちにバンドルをインストールします。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule, --distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- L, --launch-immediately - インストール後ただちにバンドルを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule, --distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- n, --distribute-now - バンドルをただちに配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule および --distribute-on-device-refresh オプションは無視されます。--distribute-now、--distribute-on-device-refresh、および --distribution-schedule オプションは配布スケジュールの設定に使用し、互いに排他的です。最初に --distribute-now オプションが考慮され、次に --distribute-on-device-refresh オプションが考慮され、最後に --distribution-schedule が考慮されます。
- r, --distribute-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを配布するよう配布スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--distribution-schedule オプションは無視されます。
- s, --launch-on-device-refresh - デバイス更新時にバンドルを起動するよう起動スケジュールを設定します。このオプションを指定すると、--launch-schedule オプションは無視されます。
- w, --wakeup-device-on-distribution - バンドルの配布中にデバイスがシャットダウンした場合、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動します。このオプションを使用するには、配布スケジュールも指定する必要があります。配布スケジュールは、--distribution-schedule, --distribute-now、または --distribute-on-device-refresh オプションを使用して指定することができます。
- B, --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。
- S, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバオブジェクトのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。
- C, --retries=[Number of retrie] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。
- T, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

**workstation-add-policy (wap) [options] (workstation object path) (policy or policy group) [...]**

ポリシーをワークステーションオブジェクトに割り当てます。

次のオプションを受け入れます。



- c, --conflicts=[policy conflict resolution order] - ポリシー競合の解決方法を決定します。有効な値は、userlast または 1、devicelast または 2、deviceonly または 3、useronly または 4 です。userlast の場合、デバイスに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからユーザに関連付けられたポリシーが適用されます。devicelast の場合、ユーザに関連付けられたポリシーがまず適用され、それからデバイスに関連付けられたポリシーが適用されます。deviceonly の場合、ユーザに関連付けられたポリシーは無視されます。useronly の場合、デバイスに関連付けられたポリシーは無視されます。このオプションを指定しなかった場合には、userlast がデフォルト値として使用されます。
- e, --enforce-now - 割り当てられているすべてのデバイスに対してポリシーをただちに強制的に適用します。
- f, --folder=[policy folder] - / ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **workstation-delete (wd) [options] (workstation object path) [...]**

1 つまたは複数のワークステーションオブジェクトを削除します。

(workstation object path) [...] - / デバイス / ワークステーションを基準にした、ワークステーションオブジェクト (ワークステーション、ワークステーションフォルダ、またはワークステーションオブジェクト) の相対パス。ワイルドカード \* は、引用符で囲まれている場合には、オブジェクト名に使用できます。オブジェクトを削除するのにワイルドカードを使用する場合は、注意します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - フォルダ内のオブジェクトを再帰的に削除します。
- f, --folder=[workstation folder] - / デバイス / ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに関連して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **workstation-folder-create (wfc) [options] (folder name) [parent folder]**

ワークステーションを格納するための新しいフォルダを作成します。

次のオプションを受け入れます。

- desc=[description] - フォルダの説明。

#### **workstation-group-add (wga) [options] (workstation group path) (workstation path) [...]**

ワークステーションをワークステーショングループに追加します。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[workstation folder] - / デバイス / ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **workstation-group-create (wgc) [options] (group name) [parent folder]**

ワークステーショングループを作成して、メンバーを追加します。

次のオプションを受け入れます。

- desc=[description] - グループの説明。
- m, --members=[workstation path][...] - /デバイス/ワークステーションを基準にした、ワークステーションの相対パス。
- f, --folder=[workstation folder] - /デバイス/ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **workstation-group-members (wgm) [options] (workstation group path)**

ワークステーショングループまたは動的ワークステーショングループのメンバーを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

#### **workstation-group-remove (wgr) [options] (workstation group path) (workstation path) [...]**

ワークステーションをワークステーショングループから削除します。

次のオプションを受け入れます。

- f, --folder=[workstation folder] - /デバイス/ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

#### **workstation-info (wi) (workstation path)**

ワークステーションに関する詳細情報が一覧表示されます。

#### **workstation-list (wl) [options] [folder]**

ワークステーションオブジェクトを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- r, --recursive - サブフォルダを含め、結果を再帰的に一覧表示します。このオプションを指定しなかった場合は、サブフォルダの内容は一覧表示されません。
- n, --namefilter=[filter string] - 指定した名前に一致する結果が表示されます。引用符で囲む限り、ワイルドカード\* および?を使用できます。
- t, --typefilter=[type filter][...] - 指定したオブジェクトタイプのカンマ区切りリストに一致する結果が表示されます。有効な値は、device、group、および folder です。
- c, --count - 結果の数が表示されます。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。
- f, --flagfilter=[flag filter][...] - 指定したフラグのカンマ区切りリストに一致する結果が表示されます。有効な値は、retired および notretired です。

#### **workstation-list-bundles (wlb) [options] (workstation object path)**

ワークステーションオブジェクトに割り当てられたバンドルを一覧表示します。

次のオプションを受け入れます。

- a, --all - 有効および無効のバンドル両方を一覧表示します。
- e, --effective - 有効なバンドルのみ一覧表示します。
- s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**workstation-list-groups (wlg) [options] (workstation path)**

特定のワークステーションがメンバーであるグループを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示させる結果の数。

**workstation-list-policies (wlp) [options] (workstation object path)**

ワークステーションオブジェクトに割り当てられたポリシーを一覧表示します。  
次のオプションを受け入れます。

-a, --all - 有効および無効のポリシー両方を一覧表示します。

-e, --effective - 有効なポリシーのみ一覧表示します。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

**workstation-move (wmv) (workstation object path) [destination folder path]**

ワークステーションオブジェクトを別のフォルダに移動します。

**workstation-refresh (wrf) [options] (workstation object path) [...]**

ワークステーション内の ZENworks Adaptive Agent を更新します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[workstation folder] - /デバイス/ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

**workstation-remove-bundle (wrb) [options] (workstation object path) (bundle or bundle group) [...]**

ワークステーションオブジェクトに割り当てられたバンドルを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[bundle folder] - /バンドルを基準にした、バンドルフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、バンドルオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のバンドルオブジェクトを指定するのに使用できます。

**workstation-remove-policy (wrp) [options] (workstation object path) (policy or policy group) [...]**

ワークステーションオブジェクトに割り当てられたポリシーを削除します。  
次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[policy folder] - /ポリシーを基準にした、ポリシーフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ポリシーオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のポリシーオブジェクトを指定するのに使用できます。

**workstation-rename (wr) (workstation object path) (new name)**

ワークステーションオブジェクトを名前変更します。

**workstation-reorder-bundles (wrob) (workstation object path) (current position) (new position)**

ワークステーションに割り当てられたバンドルの順序を変更します。workstation-list-bundles コマンドを使用して、割り当てられたバンドルの順序を取得します。

#### **workstation-reorder-policies (wrop) (workstation object path) (current position) (new position)**

ワークステーションに割り当てられたポリシーの順序を変更します。workstation-list-policies コマンドを使用して、割り当てられたポリシーの順序を取得します。

#### **workstation-retire (wret) (workstation object path)**

次の更新時に、ZENworks システムから、選択したワークステーションをリタイアさせます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます (反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます)。そのため、インベントリ情報はすべて保持されたままでアクセス可能ですが、ポリシーおよびバンドルの割り当てはすべて削除されます。後でデバイスを再度アクティブ化する場合、割り当ては復元されます。

次のオプションを受け入れます。

-i, --immediate - デバイスをただちにリタイアさせるために、強制的にデバイスを更新します。

#### **workstation-unretire (wuret) (workstation object path)**

選択したワークステーションを次回の更新時に再び有効にして、デバイスが以前に所有していたすべてのポリシーおよびバンドルの割り当てを再び適用します。

次のオプションを受け入れます。

-i, --immediate - デバイスのリタイアをただちに解除するために、強制的にデバイスを更新します。

#### **workstation-view-all-policies-status (wvaps) [options] (workstation path)**

ワークステーションに割り当てられたポリシーの詳細な展開ステータスを表示します。

次のオプションを受け入れます。

--statusfilter=[status type][...] - ポリシー適用イベントのステータスでフィルタします。有効な値は、S、F、および P (Success、Failure、および Pending) です。ステータスタイプのカンマ区切りリストを指定できます。

-s, --scrollsize=[scrollsize] - 一度に表示される結果の数。

#### **workstation-wakeup (ww) [options] (workstation object path) [...]**

Wake-On-Lan を使用してワークステーションを起動します。

次のオプションを受け入れます。

-f, --folder=[workstation folder] - /デバイス/ワークステーションを基準にした、ワークステーションフォルダの相対パス。このオプションを指定すると、ワークステーションオブジェクトのパスは、このフォルダに対して決定されます。これは、同じフォルダで複数のワークステーションオブジェクトを指定するのに使用できます。

-b --broadcast=[Broadcast address][...] - Wake-On-LAN マジックパケットをブロードキャストするのに使用するアドレスのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。有効な IP アドレスが、有効な値です。

-s, --server=[Path of the Primary or Proxy Server objects relative to /Devices][...] - デバイスを起動するのに使用するプライマリまたはプロキシサーバのカンマ区切りリスト。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。

-r, --retries=[Number of retries] - デバイスに Wake-On-LAN マジックパケットを送信する回数。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 0 ~ 5 の範囲である必要があります。デフォルト値は 1 です。

-t, --timeout=[Time interval between retries] - 2 回の再試行の間隔。このオプションは、Wake-On-LAN を使用してデバイスを起動する場合にのみ使用します。値は 2 ~ 10 の範囲である必要があります (単位は分)。デフォルト値は 2 です。

## ZENworks サーバコマンド

これらのコマンドは、ZENworks 10 Configuration Management がインストールされているサーバを管理する場合に使用します。ZENworks サーバコマンドは、長い形式では `zenserver-` から始まり、短い形式では `zs` から始まります。

### **zenserver-backup (zsb) (file path)**

このサーバを別の ZENworks Server に複製するために必要な設定ファイルをバックアップします。

(file path) - ZENworks Server 設定ファイルがバックアップされるファイルのパス。サーバに埋め込みデータベースが含まれている場合、`database-backup` コマンドを使用して、データベースをバックアップします。別のサーバインストールでサーバを復元するには、`zenserver-restore` コマンドを使用して設定ファイルを最初に復元してから、データベースを復元する必要があります。コマンドによって、バックアップファイルを暗号化するためのパスフレーズが求められます。

### **zenserver-restore (zsr) (file path)**

クラッシュした ZENworks Server のバックアップされた設定ファイルを新しい ZENworks Server インストールに復元します。

(file path) - 復元されるバックアップされた設定ファイルを含むファイルのパス。サーバは復元されているサーバと同じ DNS 名と IP アドレスを持つ必要があります。コマンドによって、バックアップされたファイルを暗号化するためのパスフレーズが求められたら、ファイルがバックアップされた際にファイルを暗号化するために使用されたパスフレーズを入力してください。

### **zenserver-retire (zsret) (server object path)**

次の更新時に、ZENworks システムから、選択した ZENworks プライマリサーバをリタイアさせます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます (反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます)。そのため、インベントリ情報はすべて保持されたままでアクセス可能ですが、ポリシーおよびバンドルの割り当てはすべて削除されません。後でデバイスのリタイアを解除すると、割り当てが復元されます。

次のオプションを受け入れます。

-i, --immediate - デバイスをただちにリタイアさせるために、強制的にデバイスを更新します。

### **zenserver-unretire (zsuret) (server object path)**

次の更新時に選択したサーバを再度プライマリサーバとしてアクティブ化し、デバイスに割り当てられていたすべてのポリシーとバンドルを再度割り当てます。

次のオプションを受け入れます。

**-i, --immediate** - デバイスのリタイアをただちに解除するために、強制的にデバイスを更新します。

## グローバルオプション

次のコマンドは、どの `zman` コマンドにも適用できます。

**-h, --help, ?, -?, /?**

さまざまなレベルでヘルプを提供します。ヘルプの使用法の詳細については、「[使用方法](#)」のセクションを参照してください。

**--usage**

コマンドの構文を表示します。

**--terse**

簡潔な出力を表示します。

**--debug**

デバッグ出力を表示します。

**-V, --verbose**

詳細な出力を有効にします。

**--quiet**

出力を行いません。エラーメッセージだけが出力されます。

**-U, --User=<username>**

ユーザ名を指定します。指定しなかった場合は、入力するように求められます。

**-P, --Password=<password>**

パスワードを指定します。指定しなかった場合は、入力するように求められます。

**--host=<host>**

接続先のホスト名または IP アドレスを指定します (デフォルト: localhost)。

**--port=<port>**

サーバがリスンするポートを指定します (デフォルト: 443)。

**--cleartext**

デバッグのために SSL を無効化します。ポートがクリアテキストポートに設定されていない場合は、デフォルトでポート 80 に接続します。

**-R, --Redirect=<file path>**

画面の出力をファイルにリダイレクトします。コマンドラインリダイレクション演算子 (>) の代わりにこのオプションを使用すると、データは UTF-8 形式で保存され、英語以外の文字も保持されます。

**-G, --ignore-global-file**

`zman-config.properties` で指定されたグローバルオプションファイルを無視します。

## ファイル

### zman-config.properties

これは zman を設定するのに使用するプロパティファイルです。利用可能なオプションは、次のとおりです。

**RENDERER\_SCROLLSIZE:** リストコマンドの出力をグローバルに制御します。結果が取得され、指定されたスクロールサイズの数で表示されます。この設定は、リストコマンドで `--scrollsize` オプションを使用することで、上書きできます。

**GLOBAL\_OPTIONS\_FILE:** グローバルオプションは、ファイル内に保存し、このプロパティに対する値としてファイルのパスを指定することで、すべてのコマンドに追加できます。Windows ファイルでは、\ のかわりに \\ を使用します。ファイルのコンテンツは、コマンドと同じように 1 行内にある必要があります。

例を次に示します。

```
GLOBAL_OPTIONS_FILE=C:\\zman\\globaloptions.txt
```

ファイルのサンプルのコンテンツは次のとおりです。

```
--host 123.34.45.56 --port 8080 -cleartext --verbose
```

このファイルに保存されているオプションをバイパスするには、`-ignore-global-file` オプションを使用します。`-U|--User` および `P|--Password` 以外のすべてのグローバルオプションは、グローバルオプションファイルに保存できます。`admin-store-credential` および `admin-clear-credential` は、管理者資格情報を各コマンドに追加する場合に使用します。管理者資格情報の使用のガイドラインについては、「**セキュリティ**」のセクションを参照してください。

**GLOBAL\_OPTIONS\_HELP:** コマンドのグローバルオプションは、すべてのコマンドのヘルプで表示されます。グローバルオプションの表示をオフにするには、`GLOBAL_OPTIONS_HELP=false` を設定します。

**DEBUG\_LEVEL:** Windows では `Installation_drive:\Novell\zenworks\logs`、Linux では `/var/opt/novell/log/zenworks` にある `zman.log` ファイルに記録されるデバッグメッセージの量を制御します。デフォルトのレベル 3 では、入力されたコマンドと、エラーが発生した場合の例外スタックトレースが記録されます。レベル 4 では、入力されたコマンド、コマンドの出力、および詳細デバッグメッセージが記録されます。

## セキュリティ

各コマンドを実行するには、管理者の許可が必要です。コマンドごとに管理者資格情報を入力しなくて済むようにするには、`admin-store-credential` コマンドを使用して資格情報を保存します。資格情報は暗号化されて、ユーザがコマンドを実行しているオペレーティングシステムのホームフォルダに保存されます。資格情報はログオンしているユーザにのみ適用されます。コマンドをすべて実行し終わったら、`admin-clear-credential` コマンドを実行して、情報をクリアしておくのが安全です。

---

**重要:** ユーザ名とパスワードを入力するコマンドラインオプションもありますが、これらの使用は避けてください。Linux では、これらは `ps` のリストに表示されます。さらに Windows でも Linux でも、上矢印キーや下矢印キーを押すと、以前に入力したコマンドが表示されます。入力を求められたときに資格情報を入力するか、`admin-store-credential` コマンドを使用してください。

---

## 終了コード

zman は、0 から 255 の範囲で終了コードを返します。0 は、コマンドの実行の成功を示します。1 から 255 は、実行中のエラーを示します。

### 0 - 成功

解析エラーに対する終了コード：

- 1 - 不明な解析エラーが発生しました。
- 2 - 必須の引数が指定されていません。
- 3 - 不明なフラグが指定されています。
- 4 - 値はスイッチパラメータに関して指定されています。
- 5 - フラグ付きオプションに値が指定されていません。
- 6 - 無効な追加引数が指定されています。
- 7 - 無効な値が指定されています。
- 8 - 値を有効なタイプに変換できません。
- 9 - 不明なコマンド。
- 10 - 少なくとも 1 つのオプションが必要な場合に、オプションが入力されていません。たとえば、権限の変更には、Assign または Revoke オプションのうち少なくとも 1 つを指定する必要があります。

一般エラーに対する終了コード：

- 11 - 不明なエラーが発生しました。
- 12 - 従属する zman jar ファイルが存在しないため、機能が利用できません。
- 13 - 認証に失敗しました。
- 14 - ユーザ名またはパスワードとして、空の文字列が指定されました、または、指定されたパスワードが、最小長さの要件を満たしていません。
- 15 - ZENworks ライセンスの期限が切れています。
- 16 - 接続に失敗しました。ZENworks サーバまたはデータベースのデバイスがダウンしている可能性があります。
- 17 - ZENworks 管理者には、この操作を実行する十分な権限がありません。
- 18 - SSL 通信を確立するための証明書を読み込めません。
- 19 - このコマンドはローカルホストでのみ実行できます。

一般オブジェクト関連エラーに対する終了コード：

- 21 - 指定したオブジェクトが予期されたタイプではありません。たとえば、デバイスの代わりにバンドルが指定されています。
- 22 - オブジェクトが見つかりませんでした。
- 23 - 同じ名前を持つオブジェクトがすでに指定したフォルダに存在します。
- 24 - 指定したオブジェクトが指定したフォルダ以外のディレクトリにあります。
- 25 - 親フォルダはサブフォルダに移動できません。
- 26 - オブジェクトの名前を変更できません。
- 27 - オブジェクトを削除できません。
- 28 - 空でないフォルダを削除しようとしています。
- 29 - オブジェクトはすでにグループのメンバーです。
- 30 - オブジェクトはグループのメンバーではありません。



- 31 - オブジェクトはすでにデバイスまたはユーザに割り当てられています。
- 32 - オブジェクトはまだデバイスまたはユーザに割り当てられていません。
- 33 - オブジェクトタイプが、デバイスまたはユーザに割り当てるには無効です。
- 34 - デバイスへのオブジェクトの割り当てが許可されていません。たとえば、ユーザ固有のポリシーはデバイスに割り当てることができません。

その他の一般エラーに対する終了コード：

- 41 - 指定した名前が無効です。たとえば、オブジェクトの名前には、\* または % などの特殊文字を含めることはできません。
- 42 - スラッシュ (/) で始まる絶対パスが必要です。
- 43 - 無効なスケジュールが指定されています。
- 44 - XML ファイルに、予期された入力が含まれていませんでした。たとえば、エクスポート済みバンドル XML ファイルが必要であるにもかかわらず、エクスポート済みアクションセット XML ファイルが入力として指定された、などの場合です。
- 45 - XML ファイルが予期されたスキーマと同じではありませんでした。
- 46 - 無効な GUID が指定されています。
- 47 - 指定された値が最大長を超えています。
- 48 - 従属する引数が指定されていません。たとえば、バンドル配布時にただちにインストールするオプションがコマンドで指定されているにもかかわらず、配布スケジュールが指定されていません。

ファイル関連エラーに対する終了コード：

- 61 - ディレクトリが予期されています。
- 62 - ファイルが存在しないか、ディレクトリです。
- 63 - ファイルがすでに存在します
- 64 - ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。
- 65 - ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。
- 66 - ファイルを作成中にエラーが発生しました。
- 67 - ディレクトリの作成中にエラーが発生しました。
- 68 - ファイルのコピー中にエラーが発生しました。
- 69 - ファイルのアップロード中にエラーが発生しました。
- 70 - ターゲットデバイスに十分なディスク容量がないためファイルをロードできません。

登録コマンドに固有の終了コード：

- 71 - 登録キーまたはルールセットに関連付けられているフォルダとグループが同じデバイスタイプではありません。
- 72 - ルールセットは少なくとも 1 つのルールを持つ必要があります。

バンドルコマンドおよびポリシーコマンドに共通の終了コード：

- 76 - コンテンツの作成に失敗しました。
- 77 - その名前のファイルがすでに存在するため、一時ディレクトリへのコンテンツファイルのコピーがキャンセルされました。
- 78 - ファイルコンテンツを持つバンドルまたはポリシーの作成をコンテンツサーバではないサーバに作成しようとしています。

バンドルコマンドに固有の終了コード：

- 81 - バンドルアイコンに指定されたファイルが有効なイメージファイルではありません。
- 82 - アクションセットに並べ替え、削除、またはエクスポートするアクションが含まれていません。
- 83 - アクションセットに並べ替え、削除、またはエクスポートするアクションが任意の位置に含まれていません。
- 84 - アクションセットがバンドルタイプでサポートされていません。たとえば、Preboot アクションセットは、Windows バンドルではサポートされていません。
- 85 - アクションがアクションセットでサポートされていません。たとえば、Verify バンドルアクションは、Install アクションセットではサポートされていません。
- 86 - アクションが削除できません。
- 87 - アクションタイプが単体です。同じアクションタイプを2度以上アクションセットに追加することはできません。
- 88 - アクションタイプは依存バンドルをサポートしません。たとえば、Install MSI アクションには依存バンドルパスを指定できません。
- 89 - 指定した従属バンドルパスがバンドルの循環従属関係になります。
- 90 - バンドルの割り当て時に Wake-On-LAN スケジュールを作成できませんでした。
- 91 - バンドルの割り当て解除時に Wake-On-LAN スケジュールを削除できませんでした。

デバイスコマンドとユーザコマンドに共通の終了コード:

- 101 - デバイスまたはユーザに関連付けられているバンドルまたはポリシーがありません。

ユーザコマンドに固有の終了コード:

- 106 - ユーザソース証明書の期限が切れています。
- 107 - ユーザソースに接続するには SSL が必要です。

ライセンスコマンドに固有の終了コード:

- 116 - ライセンスを有効にできません。
- 118 - サーバに認証局ロールがありません。
- 119 - サーバに認証局ロールを有効にするために必要なファイルがありません。
- 120 - 使用されている認証局は ZENworks Internal Certificate Authority ではありません。

管理者コマンドに固有の終了コード:

- 121 - 権限が権限カテゴリに属していません。

データベースコマンドに固有の終了コード:

- 126 - データベースが組み込みデータベースではありません。
- 127 - SQL ステートメントは無効です。
- 128 - SQL 例外が発生しました。

展開コマンドに固有の終了コード:

- 131 - 無効な IP アドレスまたはホスト名が指定されています。
- 132 - デバイスに接続するために必要な資格情報が指定されていません。
- 133 - 管理対象デバイス、または既に展開がスケジュールされているデバイスが指定されています。

レポートコマンドに固有の終了コード:

- 136 - レポートを削除できませんでした。
- 137 - レポート生成の要求の送信に失敗しました。
- 138 - 無効なレポートドキュメント。

## 著者

Copyright 2005-2009, [Novell, Inc \(http://www.novell.com\)](http://www.novell.com). All rights reserved.

# zeninfocollect(1)

## Name

zeninfocollect - Novell ZENworks 10 Configuration Management または ZENworks 10 Asset Management の使用時に発生する可能性がある問題の解決に役立つ情報を収集できるユーティリティです。

## 構文

```
./zeninfocollect.py <options>
```

## 説明

デフォルトでは、zeninfocollect は、キャッシュ、サーバ、クライアント、設定、ハードウェア、およびパッケージのデータに加え、ログファイルも収集します。収集された情報は、Windows では zip ファイル、Linux では tarball ファイルにパッケージ化され、指定した場所に保存されます。

デフォルトでは、zeninfocollect ユーティリティはどのデバイスにもインストールされません。

Windows 管理デバイスに zeninfocollect ユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworksInfocollect\_Win.zip ファイルを `ZENworks_Server\novell\zenworks\install\downloads\tools` ディレクトリからコピーします。または、ファイルを ZENworks コントロールセンターからダウンロードします ( [共通タスク] で、 [ZENworks ツールのダウンロード] > [管理ツール] をクリックします)。
- 2 管理デバイス上で、ZENworksInfocollect\_Win.zip ファイルを抽出します。
- 3 管理デバイスのコマンドプロンプトで、zip の内容を抽出したディレクトリに移動し、zeninfocollect.exe を実行します。

python がインストールされた Linux 管理デバイスに zeninfocollect ユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworksInfocollect\_Linux.zip ファイルを `ZENworks_Server/novell/zenworks/install/downloads/tools` ディレクトリからコピーします。または、ファイルを ZENworks コントロールセンターからダウンロードします ( [共通タスク] で、 [ZENworks ツールのダウンロード] > [管理ツール] をクリックします)。
- 2 管理デバイス上で、ZENworksInfocollect\_Linux.zip ファイルを抽出します。
- 3 管理デバイスのコマンドプロンプトで、zip の内容を抽出したディレクトリに移動します。/zeninfocollect.py を実行します。

## オプション

### **--output-dir**

出力アーカイブのディレクトリを指定します。ディレクトリを指定しなかった場合、出力はユーザの一時ディレクトリ (Windows 管理デバイスでは %TEMP、Linux 管理デバイスでは /tmp) に保存されます。

### **-h, --help**

ヘルプ情報を表示します。

### **-a, --no-cache**

キャッシュデータを収集しません。

### **-c, --no-client**

クライアントデータを収集しません。

### **-d, --no-hardware**

ハードウェアデータを収集しません。

### **-l, --no-logs**

ログを収集しません。

### **-o, --no-config**

設定データを収集しません。

### **-p, --no-packages**

パッケージデータを収集しません。パッケージデータには、ZENworks 10 Configuration Management パッケージリポジトリ内にあるパッケージのすべてのバージョン情報が含まれています。

### **-s, --no-server**

サーバデータを収集しません。

## 著者

Copyright 2005-2009, Novell, Inc (<http://www.novell.com>). All rights reserved.

# zac(1)

## Name

zac - Novell ZENworks Adaptive Agent 用のコマンドライン管理インタフェースエージェントです。

## 構文

*zac command options*

## 説明

zac ユーティリティは、ZENworks 管理デバイス上でコマンドライン管理機能を実行します。これには、ソフトウェアバンドルのインストールと削除、ポリシーの適用、およびデバイスの登録と登録解除が含まれます。

## 使用方法

ほとんどのコマンドには、長い形式と短い形式があります。

- ◆ 長い形式 : add-reg-key
- ◆ 短い形式 : ark

両方の形式が利用可能な場合には、コマンドは次のように一覧表示されます。

*add-reg-key (ark) options*

コマンドを入力するときには、次のように、長い形式と短い形式のどちらか一方だけを入力してください。

*zac add-reg-key options*

*zac ark options*

オプションにスペースを含める場合には、次のように引用符で囲みます。

*zac ark "option 1"*

## ヘルプコマンド

**/h** または **--help**

コマンドについての情報を表示します。

## バンドルコマンド

**bundle-install (bin) <bundle display name>**

指定したバンドルをインストールします。利用可能なバンドルと、その表示名のリストを取得するには、**bundle-list** コマンドを使用します。

例 :

```
zac bin bundle1
```

**bundle-launch (bln) <bundle display name> [-noSelfHeal]**

指定したバンドルを起動します。利用可能なバンドルと、その表示名のリストを取得するには、`bundle-list` コマンドを使用します。

表示名に基づいてバンドルを起動する場合の例

```
zac bln bundle1
```

表示名に基づいてバンドルを起動し、起動アクションが失敗した場合にはセルフヒーリングをオフにする場合の例 (セルフヒーリングデフォルトでオンになっています)

```
zac bln bundle1 -noSelfHeal
```

**bundle-list (bl)**

デバイスおよびログインユーザに割り当てられているバンドルのリストを表示します。

例 :

```
zac bl
```

**bundle-props (bp) <bundle display name>**

指定したバンドルのステータス、バージョン、GUID、および要件情報を表示します。利用可能なバンドルと、その表示名のリストを取得するには、`bundle-list` コマンドを使用します。

例 :

```
zac bln bundle1
```

**bundle-refresh (br) <bundle display name or guid>**

指定されたバンドルの情報を更新します。

例 :

```
zac br bundle1
```

**bundle-remove (brm) <bundle display name>**

指定したバンドルをアンインストールします。インストールされたバンドルと、その表示名のリストを取得するには、`bundle-list` コマンドを使用します。

例 :

```
zac brm bundle1
```

**bundle-uninstall (bu) <bundle display name>**

指定したバンドルをアンインストールします。インストールされたバンドルと、その表示名のリストを取得するには、`bundle-list` コマンドを使用します。

例 :

```
zac bu bundle1
```

**bundle-verify (bv) <bundle display name>**

インストールされたバンドル (`bundle display name` で指定されたもの) を検証して、削除されたり壊れたりしたものがないことを確認します。インストールされたバンドルと、その表示名のリストを取得するには、`bundle-list` コマンドを使用します。

例 :

```
zac bv bundle1
```

## コンテンツ配布コマンド

### wake-cdp (cdp) [replicate | cleanup]

コンテンツ配布ポイントワーカースレッドを起動します。次のいずれかのオプションを使用できます。

**replicate** - 新しいコンテンツまたは変更されたコンテンツがあれば、コンテンツ配布ポイントの親 ZENworks サーバからダウンロードします。

**cleanup** - コンテンツ配布ポイントに保存する必要がなくなったコンテンツがあれば、削除します。

例 :

```
zac cdp
```

```
zac cdp replicate
```

## データベースコマンド

### staussender CleanUp

すぐにクリーンアップを行い、MDStatus データベース内のエントリのうち、前回のロールアップ成功後、14 日間更新されていないものを削除します。デフォルトでは、クリーンアップは 1 日 1 回と、エージェントサービスの初回起動時に実行されます。クリーンアップメソッドは、ログレベルが **DEBUG** に設定されると、適切なメッセージを `zmd-messages.log` ファイルに記録します。

MDStatus データベースを使用して、管理対象デバイスから ZENworks サーバにバンドルとポリシーステータスをロールアップします。

### staussender RollUp

正常にステータスがロールアップされた後に更新されたステータスを、MDStatus データベースにロールアップします。デフォルトでは、ステータス送信側が 5 分ごとにステータスを自動的にロールアップします。

MDStatus データベースを使用して、管理対象デバイスから ZENworks サーバにバンドルとポリシーステータスをロールアップします。

## イメージングコマンド

### file-system-guid (fsg)[-d] [-r]

イメージ取得の準備のために、ファイルシステム内で、ワークステーション GUID の削除と復元を行います。

ファイルシステムから GUID を削除する場合の例

```
zac file-system-guid -d
```

ファイルシステムに GUID を復元する場合の例

```
zac file-system-guid -r
```



GUID 値をプリントする場合の例

```
zac fsg
```

## インベントリコマンド

**inventory (inv) inventory [scannow|cdf]**

インベントリスキャンを実行します。またはコレクションデータフォームを開きます。

例：インベントリスキャンを実行する

```
zac inv scannow
```

例：コレクションデータフォームを開く

```
zac inv cdf
```

## ログコマンド

**logger (log) resetlog[level [MANAGED|ERROR|WARN|INFO|DEBUG] |managedlevel, logger**

ZENworks Adaptive Agent のロガーの設定を変更または表示します。

次のオプションを使用できます。

**resetlog** - ログをリセットします。

**level** - レベルを指定せずにこのオプションを使用する場合、現在の管理ログのレベルを表示します。レベルを指定した場合には、ロギングレベルを指定したレベルに変更します。

**managedlevel** - 現在の管理ロギングレベルを表示します。

ログファイルをリセットする場合の例

```
zac logger resetlog
```

現在のログレベルを表示する場合の例

```
zac logger level
```

ログレベルを DEBUG 以上にする場合の例

```
zac logger level DEBUG
```

## ポリシーコマンド

**policy-export (pe) <policy type>**

ブラウザブックマークポリシーの設定を XML ファイルにエクスポートします。または、Windows グループポリシーを ZIP ファイルにエクスポートします。

ポリシーのタイプは、browserbookmarkspolicy タイプまたは grouppolicy タイプである必要があります。

ブラウザブックマークポリシーの使用法

```
zac pe browserbookmarkspolicy <export XML filename> <Favorites folder to export>
```

ブラウザブックマークポリシーの例

```
zac pe browserbookmarkspolicy c:\financial.xml Financial
```

Windows グループポリシーの例

```
zac pe grouppolicy <options> <export ZIP filename>
```

options には次の要素を指定します。

all - コンピュータとユーザ両方の環境設定をエクスポートします。

computer (cmp) - コンピュータの環境設定だけをエクスポートします。

user (usr) - ユーザの環境設定だけをエクスポートします。

active-directory (ad) [*Active Directory group policy path*] - Active Directory のグループポリシーをエクスポートします。Active Directory のグループポリシーパスを指定する必要があります。 .

Windows グループポリシーの例

```
zac pe grouppolicy all c:\policy.zip
```

### policy-list (pl)

現在デバイスに強制的に適用されているポリシー (有効ポリシー) を一覧表示します。すべてのポリシー (有効ポリシーと有効でないポリシー) を一覧表示するには、-all オプションを使用します。

例 :

```
zac pl
```

```
zac pl --all
```

### policy-refresh (pr)

デバイスとユーザに割り当てられているすべてのポリシーを適用します。

例 :

```
zac pr
```

## 登録コマンド

### add-reg-key (ark) <registration key>

指定したキーを使用してデバイスを登録します。キーによる登録は追加的です。デバイスが既に特定のキーで登録されている場合に、新しいキーで登録すると、デバイスは、両方のキーに関連付けられたグループ割り当てをすべて受け入れます。

例 :

```
zac ark key12
```

### get-settings (gs) <registration key>

指定した登録キーに関連付けられている設定を一覧表示します。

例 :

```
zac gs key1
```

### register (reg) [-k <key>] [-u <username> -p <password>] [-makenewguid] <ZENworks Server address:port>

デバイスを管理ゾーンに登録します。

次のオプションを使用できます。

k - 指定されたレジストリキーを使用してデバイスを登録できます。

u - 管理ゾーン管理者のユーザ名を指定できます。

p - 管理ゾーン管理者のパスワードを指定できます。

**makenewguid** - 複数のデバイスに同じ GUID を使用している場合、デバイスに新しい GUID を作成できます。このオプションを使用して、プライマリサーバまたはサテライトデバイスに新しい GUID を作成することはできません。ローカルユーザがこのオプションを使用するにはローカル管理者の権限が必要です。

例：

```
zac reg -k key1 https://123.456.78.90
```

```
zac reg -k key1 -u administrator -p novell https://zenserver.novell.com:8080
```

ポート番号は、ZENworks Server が標準の HTTP ポート (80) を使用していない場合のみ、必要です。ユーザ名とパスワードを指定しなかった場合には、入力するように求められます。

**reregister (rereg)[-u <username> -p <password>] <new guid>**

デバイスを現在のゾーンに登録し、既存のデバイスオブジェクトの GUID を割り当てます。現在関連付けられているデバイスオブジェクトは削除されます。

たとえば、ハードドライブの交換後にデバイスのイメージを作成した場合、デバイスには新しい GUID が与えられる可能性があります。しかし、**reregister** コマンドを使用すれば、ハードドライブを交換する前にデバイスが持っていた GUID を割り当てることができます。

例：

再登録してユーザ名とパスワードを指定する

```
zac reregister -u myuser -p mypassword eaa6a76814d650439c648d597280d5d4
```

再登録して、ユーザ名とパスワードを入力するようプロンプトを表示する

```
zac reregister eaa6a76814d650439c648d597280d5d4
```

**unregister (unr) [-f] [-u <username> -p <password>]**

管理ゾーンからデバイスの登録を削除します。

例：

```
zac unr -u administrator -p novell
```

-f、-u、および -p パラメータはオプションです。-u および -p パラメータを指定しないと、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。-f パラメータは ZENworks データベースを無視し、強制的にローカルでデバイスを登録解除します。このオプションは、デバイスオブジェクトが ZENworks データベースからすでに削除済みか、またはデバイスがデータベースに接続できない場合にのみ必要です。

## ステータスコマンド

**cache-clear (cc)**

デバイスの ZENworks キャッシュをクリアします。これにより、キャッシュデータベースのすべてのエントリと、これらのエントリに関連付けられたキャッシュファイルが削除されます。

例：

```
zac cc
```

### **dump-prop-pages (dpp) <target directory>**

ZENworks アイコンのプロパティページに表示される HTML ページを、指定したターゲットディレクトリのファイルに出力します。

例：

```
zac dpp c:\temp
```

### **refresh (ref)[general [bypasscache] | partial [bypasscache]]**

一般更新を呼び出してすべてのバンドル、ポリシー、登録、環境設定を更新します。部分更新を呼び出して、すべてのポリシー、登録、環境設定を更新します。

bypasscache を使用して、更新中にサーバキャッシュからデータが使用されないようにします。このオプションはテストまたはトラブルシューティングに有効です。

例：

```
zac ref general
```

```
zac ref partial bypasscache
```

### **set-proxy (sp) [options] <IP address:port> [username] [password]**

ZENworks サーバに直接接続する代わりに、接続するプロキシを指定します。オプションは次のとおりです。

/default - プロキシを設定します。これは管理ゾーンからのプロキシ設定で上書きすることができます。

/clear - 現在のプロキシをクリアし、管理ゾーンのプロキシ設定を使用します。

例：

```
zac sp 123.456.78.90 administrator novell
```

```
zac sp /default 123.456.78.90
```

ユーザ名とパスワードを指定しなかった場合には、入力するように求められます。

### **winproxy-refresh (wpr)**

このデバイスに割り当てられたプロキシ作業について、管理ゾーンに対してクエリを実行します。

例：

```
zac wpr
```

### **zenhttp-status(zhs)**

登録ハンドラのポートとタグを一覧表示します。

例：

```
zac zhs
```

### **zeninfo-collect [<targetfile>]**

キャッシュデータ、環境設定データ、デバッグログ、製品インストール情報、更新時間、ステータスイベント、および基本システム情報を含む ZENworks サポート情報を収集します。情報は zip ファイルにパッケージ化され、指定した場所に保管されます。場所を指定しないと、Windows の場合は `$_TEMP\zeninfo- $\{DateTime\}$ .zip`、Linux の場合は `$_TMPDIR\zeninfo- $\{DateTime\}$ .zip` が使用されます。管理対象デバイスで問題が発生している場合は、Novell Support が、問題解決に役立てるためにこのコマンドを実行し、結果の zip ファイルを Novell に送信するよう依頼することがあります。

### **zone-config (zc) [-l]**

デバイスが環境設定情報を求めてアクセスしている ZENworks サーバの情報を表示します (設定サーバ)。または、設定サーバについての情報を一覧表示します。

例:

```
zac zc
```

```
zac zc -l
```

## **著者**

Copyright 2008-2009, Novell, Inc. All rights reserved. <http://www.novell.com>



# Linux サテライトのコマンドラインユーティリティ

# 2

次のセクションでは、Linux サテライトのコマンドラインユーティリティについての情報を提供します。

- ◆ [88 ページの「zac\(1\)」](#)

# zac(1)

## Name

zac - Novell Linux サテライトのコマンドライン管理インタフェース。

## 構文

*zac command options*

## 説明

zac ユーティリティは、サテライト環境設定、デバイスの登録と登録の取り消しを含むコマンドライン管理機能を ZENworks の管理対象外デバイス上で実行します。

## 使用方法

ほとんどのコマンドには、長い形式と短い形式があります。

ロングフォーム : `add-reg-key`

ショートフォーム : `ark`

両方の形式が利用可能な場合には、コマンドは次のように一覧表示されます。

`add-reg-key (ark) options`

コマンドを入力するときには、次のように、長い形式と短い形式のどちらか一方だけを入力してください。

`zac add-reg-key options`

`zac ark options`

オプションにスペースを含める場合には、次のように引用符で囲みます。

`zac ark "option 1"`

## ヘルプコマンド

`/?` または `--help`

システムのヘルプを表示します。

`COMMAND /?`

指定したコマンドの説明を表示します。

`/g` または `--group`

指定したグループのコマンドを表示します。



## コレクションロールアップコマンド

### collection-clients (crc)

このコレクションにファイルをアップロードしたデバイスを表示します。

例：

```
zac crc
```

### collection-queued (crq)

収集したファイルのうち、ロールアップを行っていないファイルを表示します。

例：

```
zac crq
```

### collection-state (crs)

サテライトコレクション役割の現在の状態を表示します。

例：

```
zac crs
```

### collection-upload-orphans (cuo)

サテライトデバイス上の孤立したファイルを検索して、親コレクションサーバにロールアップするか、またはロールアップ済みの場合は削除します。

このコマンドは /var/opt/novell/zenworks/work/collection (collectionStatsDB フォルダ以外) の下のフォルダにファイルリストを構築し、コレクション統計データベースの各エントリの元のアップロード情報を検索しようとします。

データベースにファイルのエントリがある場合は、ファイルがロールアップされていないことを示し、ファイルをロールアップします。エントリにファイルがロールアップ済みであることが示されている場合は、サテライトデバイスのファイルを削除します。データベースにファイルのエントリがない場合は、ファイルをロールアップしません。このコマンドは、アップロードまたは削除されなかったファイルのリストも表示します。

このコマンドを実行する前に、zac crw コマンドを実行して保留中のファイルを親サーバに送信する必要があります。

例：

```
zac cuo
```

### collection-wake (crw)

収集したファイルを親サーバに送信します。

例：

```
zac crw
```

## コンテンツ配布コマンド

### distribution-info (cdi) [option]

コンテンツの役割に関する統計情報を表示します。次のオプションを使用できます。

all - 「\*」の印が付いているすべてのオプションを実行します。

ss - 同期ステータスを表示します\*。

rs - コンテンツリポジトリのサイズを取得します\*。  
da - このデバイスからデータを取得したデバイスを一覧表示します\*。  
ne - コンテンツ配布エラー数を取得します\*。  
ds - このデバイスが提供したデータサイズを取得します\*。  
fs - 提供したファイル数を取得します\*。  
ah [n] - アクセス履歴の *n* (デフォルトは all) 項目を表示します。  
ch - 履歴を消去します。  
eh <file> - アクセス履歴を <file> にエクスポートします。ここにはパスを含む必要があり、ファイル自体が存在してはなりません。

例:

```
zac cdi
zac cdi rs
```

#### **distribution-state (cds)**

サテライトコンテンツの役割のステータスを表示します。役割が有効/無効か、ステータス(開始中、アクティブ、停止中、停止済み)、親 URL、レプリケーションスケジュールを表示します。

例:

```
zac cds
```

#### **distribution-wake (cdp) [replicate | cleanup]**

コンテンツ配布ポイントワーカースレッドを起動します。次のいずれかのオプションを使用できます。

replicate - 新しいコンテンツまたは変更されたコンテンツがあれば、コンテンツ配布ポイントの親 ZENworks サーバからダウンロードします。

cleanup - コンテンツ配布ポイントに保存する必要がなくなったコンテンツがあれば、削除します。

例:

```
zac cdp
zac cdp replicate
```

## **コアコマンド**

#### **get-settings (gs) <registration key>**

指定した登録キーに関連付けられている有効な設定を一覧表示します。

例:

```
zac gs key1
```

#### **get-pref (get) <preference name>**

現在設定されている初期設定を表示します。

次を設定できるすべての初期設定を表示した例:

```
zac get-pref
```

abc で始まる名前すべての初期設定を表示した例:

```
zac get-pref abc
```

**set-pref (set) <preference name> <preference value>**

初期設定値を設定します。

初期設定値 abc を 123 に設定した例：

```
zac set-pref abc 123
```

## イメージングコマンド

**file-system-guid (fsg)[-d] [-r]**

イメージ取得の準備のために、ファイルシステム内で、ワークステーション GUID の削除と復元を行います。

ファイルシステムから GUID を削除する場合の例

```
zac file-system-guid -d
```

ファイルシステムに GUID を復元する場合の例

```
zac file-system-guid -r
```

GUID 値をプリントする場合の例

```
zac fsg
```

## ログコマンド

**logger [resetlog | level [MANAGED|ERROR|WARN|INFO|DEBUG] |managedlevel]**

ロガーの環境設定を変更します。

次のオプションを使用できます。

**resetlog** - ログをリセットします。

**level** - レベルを指定しなかった場合に、現在の管理ログのレベルを表示します。レベルを指定した場合には、指定したレベルにロギングレベルを変更します。

**managedlevel** - 現在の管理ロギングレベルを表示します。

ログファイルをリセットする場合の例

```
zac logger resetlog
```

現在のログレベルを表示する場合の例

```
zac logger level
```

ログレベルを DEBUG 以上にする場合の例

```
zac logger level DEBUG MANAGED
```

## 登録コマンド

**add-reg-key (ark) <registration key>**

指定したキーを使用してデバイスを登録します。キーによる登録は追加的です。デバイスが既に特定のキーで登録されている場合に、新しいキーで登録すると、デバイスは、両方のキーに関連付けられたグループ割り当てをすべて受け入れます。

例：

```
zac ark key12
```

**register (reg) [-k <key>] [-u <username> -p <password>] <ZENworks Server address:port>**

デバイスを管理ゾーンに登録します。

例：

```
zac reg -k key1 https://123.456.78.90
```

```
zac reg -k key1 -u administrator -p novell https://zenserver.novell.com:8080
```

ポート番号は、ZENworks Server が標準の HTTP ポート (80) を使用していない場合にのみ、必要です。ユーザ名とパスワードを指定しなかった場合には、入力するように求められます。

**reregister (rereg)[-u <username> -p <password>] <new guid>**

デバイスを現在のゾーンに登録し、既存のデバイスオブジェクトの GUID を割り当てます。現在関連付けられているデバイスオブジェクトは削除されます。

たとえば、ハードドライブの交換後にデバイスのイメージを作成した場合、デバイスには新しい GUID が与えられる可能性があります。しかし、reregister コマンドを使用すれば、ハードドライブを交換する前に同じ GUID を割り当てることができます。

例：

再登録してユーザ名とパスワードを指定する

```
zac reregister -u myuser -p mypassword eaa6a76814d650439c648d597280d5d4
```

再登録して、ユーザ名とパスワードを入力するようプロンプトを表示する

```
zac reregister eaa6a76814d650439c648d597280d5d4
```

**unregister (unr) [-f] [-u <username> -p <password>]**

管理ゾーンからデバイスの登録を削除します。

例：

```
zac unr -u administrator -p novell
```

-f、-u、および -p パラメータはオプションです。-u および -p パラメータを指定しないと、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。-f パラメータは ZENworks データベースを無視し、強制的にローカルでデバイスを登録解除します。このオプションは、デバイスオブジェクトが ZENworks データベースからすでに削除済みか、またはデバイスがデータベースに接続できない場合にのみ必要です。

## サテライトの役割コマンド

**satellite-cachecfg (satcfg)**

キャッシュからサテライト役割を読み込みます。

例：

```
zac satcfg
```

**satellite-clearcache (satcc)**

キャッシュからサテライト設定情報を消去します。

例：

```
zac satcc
```

### satellite-refreshcfg (satrc)

サテライト役割を更新します。

例：

```
zac satrc
```

### satellite-roles (sattr)

現在のサテライト役割とその状態を報告します。

例：

```
zac sattr
```

### imgsatsserver status (iss status)

現在のステータス、PXE サービスステータス、イメージファイル、イメージング統計を含む、デバイスのイメージング役割のプロパティを表示します。

**現在のステータス：**デバイスが現在、イメージング操作を実行するように環境設定されているかどうかを表示します。デバイスがイメージングの役割を持つサテライトになると、現在のステータスはアクティブになります。

**PXE サービスステータス：**プロキシ DHCP サービスがデバイスで有効になっているかどうかを表示します。

**PXE 要求：**イメージングサーバが前回起動されてからイメージングサーバが受信した各種イメージング要求の数。これには、失敗した要求、拒否された要求、および他のイメージングサーバを参照した要求の数も含まれています。ソース、タイプ、日時、結果などの各要求に関する情報は、イメージングサーバにログされます。

**送信したイメージ：**イメージングサーバが前回起動されてから、イメージングサーバがイメージングクライアントに送信したイメージの数。この数に含まれるのは、このイメージングサーバから取得されたイメージのみです。

**受信したイメージ：**イメージングサーバが前回起動されてから、イメージングサーバが受信して、保存した新しいイメージの数。これには、クライアント参照を通じて受信されたイメージが含まれます。

例：

```
zac iss status
```

## ステータスコマンド

### agent-properties (agp)

ZENworks Adaptive Agent についての情報を提供します。次のフィールドには ZENworks Adaptive Agent に関する情報が記載されています。

**デバイスアドレス。**デバイスの IP アドレスです。

**デバイス名。**デバイスのコンピュータ名。

**デバイス状態。**デバイスの状態：管理対象、未管理、廃棄、または不明。不明の状態はエラーの場合に限り表示されます。

**サーバとの前回の接続。**Adaptive Agent が ZENworks Server と最後に通信した時刻。

**サーバとの次回の接続。**Adaptive Agent が ZENworks Server と通信する予定の時刻。

**プライマリユーザ。**現在ログインしているユーザ。

**cache-clear (cc)**

デバイスの ZENworks キャッシュをクリアします。これにより、キャッシュデータベースのすべてのエントリーと、これらのエントリーに関連付けられたキャッシュファイルが削除されます。

例：

```
zac cc
```

**refresh (ref)[general | partial][bypasscache]**

一般更新または部分更新を呼び出して、すべての登録と環境設定を更新します。

サーバキャッシュをバイパスするには、bypasscache オプションを zac ref コマンドに渡します。

例：

```
zac ref general
```

**zenhttp-status(zhs)**

登録ハンドラのポートとタグを一覧表示します。

例：

```
zac zhs
```

**zone-config (zc) [-l]**

デバイスが環境設定情報を求めてアクセスしている ZENworks サーバの情報を表示します (設定サーバ)。または、設定サーバについての情報を一覧表示します。

例：

```
zac zc
```

```
zac zc -l
```

**著者**

Copyright 2009, Novell, Inc. All rights reserved. <http://www.novell.com>

# ZENworks コマンドラインユーティリティのトラブルシューティング

次のセクションでは、Novell® ZENworks® コマンドラインユーティリティの使用時に発生する可能性がある問題の解決策について説明します。

- ◆ 95 ページの「> や >> など、コマンドラインのリダイレクション演算子を使用してコマンドの出力先をファイルに変更すると、zman がハングする」
- ◆ 95 ページの「system-update-staging-group-create コマンドに「stage group name」オプション引数を渡さなかった場合、間違った成功メッセージが表示される」
- ◆ 96 ページの「zman rpgn コマンドを使用して SLES 10 SP1 のレポートを保存できない」
- ◆ 96 ページの「zman ssaimg コマンドを使用してサテライトに追加したイメージングの役割がただちにサーバに適用されない」
- ◆ 96 ページの「zman コマンドは、ZENworks Linux サーバの非 root ユーザには機能しません。」

## > や >> など、コマンドラインのリダイレクション演算子を使用してコマンドの出力先をファイルに変更すると、zman がハングする

ソース：ZENworks 10 Asset Management, zman。

考えられる原因：zman で各コマンドを実行するには、ZENworks 管理者のユーザ名とパスワードが必要です。コマンドで資格情報を指定しなかった場合には、同じものを入力するように要求されます。ただし、コマンドがファイルにリダイレクトされている場合、ユーザ名とパスワードのプロンプトもファイルにリダイレクトされるため、資格情報を入力するよう要求するプロンプトがユーザに表示されません。その結果、zman は、資格情報の入力を待ち続けて、ハングしたのと同じような状態になります。

アクション：-U|--User および -P|--Password オプションを使用して、資格情報をコマンドの一部として指定します。

アクション：admin-store-credential コマンドを使用して資格情報を保存してから、コマンドを実行します。

アクション：> や >> などのリダイレクション演算子の代わりに、-R|--Redirect オプションを使用して、出力をファイルにリダイレクトします。

## system-update-staging-group-create コマンドに「stage group name」オプション引数を渡さなかった場合、間違った成功メッセージが表示される

ソース：ZENworks 10 Asset Management, zman。

説明：system-update-staging-group-create コマンドにステージグループ名オプション引数を渡さなかった場合、zman は誤ったメッセージを表示します。

```
Successfully created the object "null"
```

アクション: 新たに作成されたステージンググループを含む、ステージンググループのリストを表示するには、コンソールプロンプトで `system-update-staging-group-list (susgl)` コマンドを実行します。

### **zman rpgn コマンドを使用して SLES 10 SP1 のレポートを保存できない**

ソース: ZENworks 10 アセット管理、zman。

アクション: なし。

### **zman ssaimg コマンドを使用してサテライトに追加したイメージングの役割がただちにサーバに適用されない**

ソース: ZENworks 10 Asset Management; zman。

説明: `zman ssaimg` コマンドを使用してイメージングの役割を設定した場合、役割はデバイスにただちに追加されます。役割がただちに追加されない場合は、次のデバイス更新スケジュールのときにのみ追加されます。

アクション: 役割をただちにデバイスに適用したい場合には、次のいずれかの方法で、手動でデバイスを更新する必要があります。

- ◆ コマンドプロンプトで、`zman workstation-refresh|wrf` コマンドを実行します。管理デバイスがサーバの場合には、`zman server-refresh|srf` コマンドを実行します。
- ◆ 管理対象デバイスで、**Z** アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。

### **zman コマンドは、ZENworks Linux サーバの非 root ユーザには機能しません。**

ソース: ZENworks 10 アセット管理、zman。

説明: ZENworks Linux サーバ上で非 root ユーザが `zman` コマンドを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

`zman` コマンドを実行する十分な権限がありません。Linux の非ルートユーザである場合、`zman` コマンドを実行するには `zmanusers` グループに属している必要があります。

アクション: `zman` コマンドを実行する前に、非 root ユーザを `zmanusers` グループに追加します。

- 1 ZENworks サーバに root としてログインします。
- 2 サーバコンソールプロンプトで次のコマンドを実行します。  
`useradd -G zmanusers non-rootusername`
- 3 非 root ユーザとして ZENworks サーバにログインします。



# zman の操作ガイドライン

# 4

Novell® ZENworks® 10 Asset Management の zman コマンドラインユーティリティで作業を行う場合には、次のガイドラインに従ってください。

- bundle-create や policy-create などのコマンドを使用してエクスポートされる XML ファイルに、ñ、ë、Å などの発音記号付きや拡張 ASCII 文字が含まれている場合、エディタでファイルを開くには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。ファイルに何らかの変更を加えた場合には、UTF-8 形式で保存する必要があります。
- 拡張 ASCII 文字を含むコマンド出力を Windows\* 上のファイルにリダイレクトしたい場合、コマンドラインのリダイレクション演算子 (>) を使用することはできません。これは、MS-DOS\* プロンプトのコードページは、大部分のロケールでファイルに書き出す場合に使用されるコードページとは異なっているからです。

たとえば、英語、フランス、ドイツ語、スペイン語などの西ヨーロッパ言語の場合、DOS プロンプトのコードページは cp437 または cp850 ですが、Windows オペレーティングシステムの他の部分では cp1252 を使用しています。

出力をファイルにリダイレクトし、拡張 ASCII 文字を正しく保持するには、-R|--Redirect グローバルオプションを使用してください。

- PuTTY などのクライアントを使用して Windows マシンから Linux サーバに接続する場合には、変換に使用する文字セットを UTF-8 に設定してください。こうすれば、標準 ASCII 文字以外の文字でも正しく変換されます。

PuTTY で変換用文字セットを UTF-8 に設定するには、次の手順に従います。

1. PuTTY クライアントを開きます。
2. PuTTY の [Configuration] ウィンドウで、[Windows] > [Translation] の順にクリックします。
3. [Received Data Assumed to be in Which Character Set] ドロップダウンリストで [UTF-8] を選択します。

---

**注：** コマンドの入出力に a～z または A～Z の文字しか含まれていない場合には、この設定は必要ありません。

---

- デフォルトでは、zman はサーバのデフォルトのロケールを使用します。次の手順を実行して、zman で特定の言語を使用することができます。
  - Windows では、ZENworks\_Installation\_directory\Novell\ZENworks\conf\zman\properties\zman-config.properties の JVM\_STARTUP\_OPTIONS プロパティの値として、適切なユーザ言語とファイルエンコーディングを指定します。

たとえば、zman を英語で実行するには、JVM\_STARTUP\_OPTIONS の値を -Duser.language=en -Dfile.encoding=cp850 に設定します。ファイルを編集したら、chcp 850 コマンドを使用して、コマンドプロンプトのコードページを cp850 に変更します。
  - Linux では、/opt/novell/zenworks/bin/zman で、/opt/novell/zenworks/lib/java/bin/java の後に -Duser.language=<language> を追加します。

たとえば、**zman** を英語で実行するには、**zman** スクリプトファイルを次のように変更します。

```
/opt/novell/zenworks/lib/java/bin/java -Duser.language=en -  
Djava.library.path="${LD_LIBRARY_PATH}" .....
```

# マニュアルの更新

# A

このセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP2 の『コマンドラインユーティリティリファレンス』に加えられた、マニュアル内容の変更について説明します。変更が行われた日付に基づいて、変更が一覧表示されています。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ 99 ページのセクション A.1 「2009 年 5 月 29 日 :SP2 (10.2)」

## A.1 2009 年 5 月 29 日 :SP2 (10.2)

次のセクションが更新されました。

ディレクトリ	更新内容
(10 ページ) zman(1)	次の情報が変更されました。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 13 ページの「アセット管理コマンド」<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 購入レコードファイルをロードする、asset-management-load-purchase-record コマンドを追加しました。</li><li>◆ ソフトウェアコンプライアンスエンジンを実行して、ソフトウェアライセンスコンプライアンスデータを更新する asset-management-refresh-compliance-data コマンドを追加しました。</li></ul></li><li>◆ 30 ページの「ライセンスコマンド」<ul style="list-style-type: none"><li>◆ license-show-active-components コマンドを追加し、すべての既知の ZENworks Configuration Management コンポーネントおよび DataModel プラグインの現在のライセンス状態のリストを表示します (2 つの別のリスト)。</li></ul></li><li>◆ 59 ページの「ユーザコマンド」<ul style="list-style-type: none"><li>◆ user-primary-workstation コマンドを追加し、ユーザのプライマリワークステーション、ログイン数、ユーザがプライマリワークステーションにログインしていた時間 (分) のリストを表示します。</li></ul></li><li>◆ 69 ページの「ZENworks サーバコマンド」<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ZENworks プライマリサーバをリタイアする ZENserver-retire (zsret) コマンドを追加しました。</li><li>◆ ZENworks プライマリサーバのリタイアを取り消す ZENserver-unretire (zsuret) コマンドを追加しました。</li></ul></li></ul>
(78 ページ) zac(1)	セクション全体が変更されました。

---

ディレクトリ

更新内容

---

87 ページの第 2 章「Linux  
サテライトのコマンドライ  
ンユーティリティ」

セクション全体を追加しました。

---